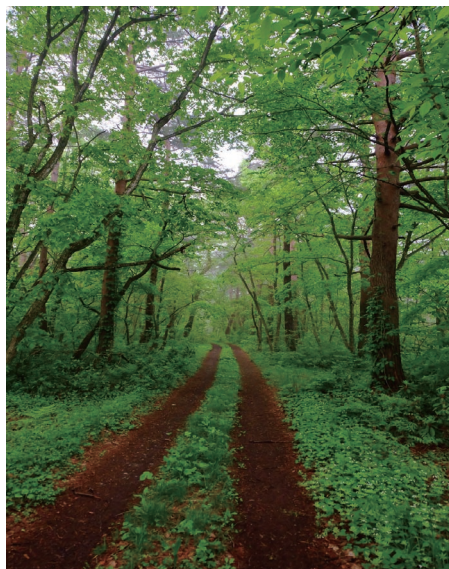


永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2025 年 5-6 月

「神の民のための賜物」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

はじめに

「もし、これらに留意するならば」 3

朝のマナ

「神の民のための賜物」 4

Gifts for God's People

力を得るための食事

「パクチー餃子」 68

レシピ

お話コーナー

「最初のけんか(Ⅱ)」 70

聖書物語

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

発行日 2025年4月6日

編集&発行 SDA改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sakusabe on Front page; Sermon View on page 4

アクセス www.4angels.jp

メール sdarm.shomaru@gmail.com

Printed in Japan

もし、これらに留意するならば

降伏は、完全でなければならない。人間は、どんなに力弱く、疑念に閉ざされ、苦闘していても、主に完全に服従する者はみな、彼を勝利者とすることができる力に、直接触れるのである。天は、彼のそば近くにある。そして、すべての試練と必要の時に、恵みの天使の支えと助けを受けるのである。

コリントの教会の信者は、最も魅惑的な形態の偶像礼拝と官能主義にとりかこまれていた。パウロが、彼らと共にいたときは、こうした勢力は、彼らに対してほとんど影響を及ぼさなかった。パウロの堅固な信仰、熱烈な祈り、真剣な教えの言葉、そして、何にもまして、彼の敬虔な生活が、罪の快樂にふけるよりキリストのために自己を否定するよう、彼らを励ました。

しかし、パウロが去ったあと、情勢が思わしくなくなった。敵のまいた毒麦が、麦の中に出て来た。そして、まもなく、毒麦は悪い実を結び始めた。これはコリントの教会にとって、激しい試練の時であった。…多くの者は、徐々に、軽率と無関心におちいり、生来の好みと傾向のままに生活するようになった。純潔と高潔という高い理想に到達するようにと、幾度となく彼らに勧告を与えた者は、もう彼らと共にいなかった。そして、改心した時に悪習慣を捨て去った者の多くが、また、異教の墮落的な罪に逆もどりした。…

パウロは、こうした状態を知らされたときに、彼の恐れていた最悪の事態が起きたことを悟った。しかし、そうだからといって、彼の働きが失敗であったとは考えなかった。彼は、「心の憂い」と「多くの涙」をもって、神の勧告を求めた。…そして、使徒パウロは、不可解でよこしまな行動をとった人々に対する彼の個人的感情をすべて捨て去って、神に信頼をよせ、彼のすべての手紙の中で最も豊かで、最も教訓に富み、最も力強い手紙の一つを、コリントの教会にあてて書いたのである。

パウロは、驚くべき明確さをもって、教会が提出した問題に解答を与え、一般的原則を定めた。もし、これらに留意するならば、彼らはより高い霊的水準へと導かれるのであった。…誠意をこめて彼は、彼らの危険について警告し、彼らの罪を責めた。彼は、ふたたび、彼らにキリストを指し示し、初めのころの献身の炎をもう一度燃え立たせようとした。…

彼らが受けた聖霊の賜物を思い起こさせ、クリスチャン生活においてたえず進歩し、ついにはキリストの純潔と神聖さに到達することが、彼らの特権であることを教えた。「あなたがたはキリストにあつて、すべてのことに、すなわち、すべての言葉にもすべての知識にも恵まれ、キリストのためのあかしが、あなたがたのうちに確かなものとされ、こうして、あなたがたは恵みの賜物にいささかも欠けることがなく、わたしたちの主イエス・キリストの現れるのを待ち望んでいる。主もまた、あなたがたを最後まで堅くささえて、わたしたちの主イエス・キリストの日に、責められるところのない者にして下さるであろう」と彼は書いた。(患難から栄光へ上巻 323-326)

神の民のための賜物

Gifts for God's People



5-6 月

5 月 預言の賜物

6 月 福音伝道者、牧師、教師

教会を建てるためにきわめて重要な賜物

「神は教会の中で、人々を立てて、第一に使徒、第二に預言者……をおかれた。」
(コリント第一 12:28)

キリストが実際に来られたとおりの時と方法は、直接的なかつ完全な預言の成就であった。使徒やその同時代の人々の証によって世に与えられたこの証拠は、キリスト教信仰を最も強力に実証するものである。わたしたちはイエスの神性を証言するその奇跡の目撃者ではないが、奇跡の目撃者であった弟子たちの供述があり、わたしたちは信仰により彼らの目を通して見、彼らの耳を通して聴く。そして、彼らの信仰と共にわたしたちの信仰は与えられた証拠をつかむのである。

使徒らは、何千年にも及ぶ預言者と義人の証に基づいてキリストを受け入れた。キリスト教世界には旧約、新約両聖書を貫いている完全で欠けたところのない証拠の鎖がある。旧約は来るべき救い主を指し示しており、新約ではその預言の条件が満たされている。これはみな信じようとする人々の信仰を確立するのに十分である。(預言の霊 3 巻 182)

使徒は続けて、テサロニケの人々に、預言の賜物を軽んじないようにと教えた。「御霊を消してはいけない。預言を軽んじてはならない。すべてのものを識別して、良いものを守」るようにと言って、真正のものから偽りのものを区別する慎重な識別力を持つように勧めた。(患難から栄光へ上巻 285)

キリストが力と大いなる栄光をもって天の雲に乗ってあらわれるまで、人々は霊的に正道を踏み外し、真理から作り話へとそれる。教会はなお困難な時代を経験し、荒布を着て預言することになろう。しかし、異端と迫害に会わなければならない、また不信心者、背教者と戦わなければならないにもかかわらず、それでも教会は神の助けによってサタンの頭を砕いているのである。主は鋼鉄のように真実で、御影石の岩のように堅固な信仰を持った民をお持ちである。彼らは世におけるこのお方の証人であり、このお方の備えの日に特別な栄光に満ちた働きをするための、このお方の道具でなければならない。(教会への証 4 巻 594、595)

5月2日

偽もの：試す

「あなたがたのうちに預言者または夢みる者が起って、しるしや奇跡を示し、あなたに告げるそのしるしや奇跡が実現して、あなたがこれまで知らなかった『ほかの神々に、われわれは従い仕えよう』と言っても、あなたはその預言者または夢みる者の言葉に聞き従ってはならない。あなたがたの神、主はあなたがたが心をつくし、精神をつくして、あなたがたの神、主を愛するか、どうかを知ろうと、このようにあなたがたを試みられるからである」(申命記 13:1～3)

主はご自分の民が理性を用いるように、また印象のゆえに理性を捨ててしまうことがないようにと要求なさる。このお方のみ働きはその子らすべてにとって理解できるものである。その教えは知的な頭脳の理解力を引きつけ、思いを高めるよう意図されている。神の力はあらゆる場合にあらわされるのではない。人の必要こそ、神の好機である。

わたしは、悪い霊によって引き起こされた混乱のうちにいる集団が、みな共に大声で祈ったり、ある者が何かを叫んだかと思うと別の者は他のことを叫んだりしているのを示された。そして何を金切り声で叫び、何を繰り返しているのかはさっぱりわからなかった。「神は無秩序の神ではなく、平和の神である」(コリント第一 14:33)。サタンが入り込み、事態を好きなように支配していた。理性と健康はこの惑わしのために犠牲にされていた。

神はご自分の民に、バアルの預言者たちを真似るように要求してはおられない。すなわち、体を苦しめ、大声で泣いたり叫んだり、ほとんどどんな姿勢にでも自らの身を投げ出して、秩序もなにも無く、ついに力が完全に尽きてしまう。宗教は大騒ぎをすることで成り立っているのではない。しかし、魂が主の御霊に満たされるとき、神への美しい心からの賛美がこのお方に栄光を帰すのである。ある者は、自分に神を信じる大いなる信仰があり、特別な賜物と自分の祈りに対する特別な答えがあると公言するが、その証拠には欠けている。彼らは憶測を信仰と取り違えている。信仰の祈りは決して失われることはない。しかし、祈りがいつも自分たちが期待したとおりの方法と特定したもので答えられると主張するのは、憶測である。……

民が拒むその光が大きければ大きいほど、彼らに及ぶ欺瞞の力と暗闇は大きくなる。真理を拒むとき人々はとりこのままであり、サタンの欺瞞の臣下のままである。(教会への証 1 巻 230～232)

発達する識別力

「もし預言者があって、主の名によって語っても、その言葉が成就せず、またその事が起らない時は、それは主が語られた言葉ではなく、その預言者がほしいままに語ったのである。その預言者を恐れるに及ばない。」(申命記 18 : 22)

わたしたちの耳を傾けている声が、真の生ける神の声であるか大背教者の声であるかを自分で知る必要がある。永遠の命はわたしたち一人びとりに価値があるものであるから、自分がどのように聴くか注意を払わなければならない。わたしたちには健全な教理、純潔な真理が必要である。(レ'ュー・アンド・ヘルト' 1900 年 6 月 26 日)

作り話という料理がいたるところでわたしたちに提供され、人々は真理よりもむしろ誤りを信じることを選ぶ。なぜなら真理を受け入れることは十字架を含むからである。自己を否定しなければならない。自己は十字架に掛からなければならない。それゆえサタンは神の律法を無効にすることによってもっと安易な道を彼らに提示する。神が、人に自分の道をとるがままになさるとき、それは彼の人生の最も暗い時である。なぜなら、頑固で不従順な子供が自分自身の道を進み、自分自身の思いの性向に従うがままに放っておかれ、自分のまわりに神の審判の暗雲を集めるとは、恐ろしいことだからである。しかしサタンには、あまりに誇り高いゆえ悔い改めず、絶えずエホバのみ事業を打ち壊し、それを足で踏みにじる働きをしている彼の代理人がいる。これらの人々が自分たちのわざとその結果の重荷にことごとく直面する日は、何という悲しみと失望の日であろうか。イエス・キリストへと救われ得た魂が、彼らの教えと感化力によって失われてしまったのである。キリストは彼らが永遠の命を持つことができるために彼らのために死なれたのである。このお方は、ご自分の功績を通して、彼らが神の律法を守ることができるようにと彼らの前に道を開かれたのである。(同上 1885 年 8 月 25 日)

わたしたちは神のみ旨を行うために自分をお捧げしているであろうか。キリストの恵みによって変えられているであろうか。ある者は、キリストの内にいると主張するが、その一方で彼らの特別な働きはエホバの律法を無効にすることである。わたしたちは彼らの言葉をそのまま受け入れるのであろうか。彼らの主張を受け入れるのであろうか。わたしたちは、神の真の僕と、多くの人々を欺くために起こるであろうとキリストが言われた偽の預言者をどのように識別するのであろうか。品性の唯一のテスト、すなわちエホバの律法がある。(同上 1900 年 2 月 6 日)

5月4日

女預言者デボラ

「そのころラビドテの妻、女預言者デボラがイスラエルをさばいていた。彼女はエフライムの山地のラマとベテルの間にあるデボラのしゅろの木の下に座し、イスラエルの人々は彼女のもとに上ってきて、さばきをうけた。」(士師記 4:4、5)

イスラエル人は、20年間圧迫者のくびきの下にうめいた。それから彼らは偶像礼拝から向き直り、へりくだりと悔悟をもって主に救出を叫び求めた。彼らはむなしく叫ぶことはなかった。イスラエルに敬神にぬきでた一人の婦人が住んでおり、主は彼女によってご自分の民を救出することをお決めになった。彼女の名前はデボラであり、女預言者として知られ、通常の行政長官のいない場合には、人々は彼女に勧告と裁きを求めるのであった。

主はイスラエルの敵を滅ぼす意向をデボラにお知らせになり、ナフタリ族のバラクという名の人を迎えにやり、彼女が受けた指図を彼に知らせるようにとお命じになった。そこで、彼女はバラクを呼びにやり、ナフタリとゼブルンの部族一万人を招集し、ヤビン王の軍隊と戦うようにと指示した。

バラクはヘブル人の散られ、気力のうせた、無防備の状態と、敵の強さと手腕を知っていた。彼は主ご自身によって自分がイスラエルを救出するために選ばれた者であることを示されていたが、まだ臆病で確信がもてなかった。彼はそのメッセージを神の言葉としてデボラから受け入れたが、イスラエルをほとんど信頼していなかったのも、彼らが自分の呼びかけに従わないのではないかと恐れた。彼は、デボラが彼に同伴し、彼女の感化力と勧告によって彼の努力を支持するのであれば、そのような疑わしい仕事を引き受けないと拒んだ。デボラは承諾したが、彼の信仰の欠如のゆえに、得た勝利は彼に名誉をもたらすのではないと、彼に納得させた。なぜならシセラは一人の婦人の手に渡されるからであった。……

イスラエル人は勇気をもって機敏に行動したが、神だけが敵を覆すことがおできになったので、勝利はこのお方にのみ帰することができるのであった。(ザ・サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1881年6月16日)

ラマであらわされた御霊

「サウルは、ダビデを捕えるために、使者たちをつかわした。彼らは預言者の一群が預言していて、サムエルが、そのうちの、かしらとなって立っているのを見たが、その時、神の霊はサウルの使者たちにも臨んで、彼らもまた預言した。……そこでサウルはみずからラマに行き、……そこでサウルはそこからラマのナヨテに行ったが、神の霊はまた彼にも臨んで、彼はラマのナヨテに着くまで歩きながら預言した。」
(サムエル上 19:20、22、23)

サウルがベニヤミンのギベアへ上っていったとき、礼拝をしていた高きところから帰ってくる預言者の一群に気づいた。そして彼らは進みながら、笛、豎琴、撥弦楽器、小太鼓の調べで神を賛美した。そのとき神の御霊がサウルに宿り、彼も預言者に加わって、彼らと共に至高者をほめたたえる賛美をし、神の真理の驚くべきことを宣言した。彼は非常に流暢(りゅうちょう)に知恵をもって語り、祈りと賛美の奉仕に非常に熱心に加わったので、彼のことを教育を受けていない農夫としてしか知らなかった人々は、不思議に思っ「キシの子に何事が起ったのか。サウルもまた預言者たちのうちにいるのか」と言った(サムエル上 10:11)。彼らはこれほど大きな変化がどのようにもたらされたのか理解できなかった。

サムエルは、宗教教育と預言の賜物の開示のために最初の正式な機関を設立した。研究の主要な科目として、神の律法がモーセに与えられた指示と共に教えられ、聖なる歴史、聖なる音楽、詩があった。この「預言者の学校」で青年たちは、神の真理によく精通しているだけでなく、自ら神との密接なまじわりを維持し、神の御霊を特別に受けてきた人々によって教育を受けた。これらの教育者は学識と敬神のゆえに人々の尊敬と信頼を享受していた。聖霊の力が彼らの集会でしばしば顕著に表され、預言の賜物の働きは珍しいことではなかった。これらの学校あるいは大学は、宗教の真理の普及をもたらすだけでなく、生き生きとした信心の精神を保つものとして、イスラエルにとってかけがえのない価値があった。サウルが預言者の礼拝で彼らと一つになったとき、聖霊の再生力によって、彼のうちに大いなる変化が起こった。(ザ・サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1882年7月20日)

5月6日

ミカヤの模範

「さてミカヤを呼びにいった使者は彼に言った、『預言者たちは一致して王に良い事を言いました。どうぞ、あなたも、彼らのひとりの言葉のようにして、良い事を言ってください』。ミカヤは言った、『主は生きておられます。主がわたしに言われる事を申しましょう。』」(列王記上 22:13、14)

キリストに従うと公言する者の多くが誤りと背教に陥っている間、光のうちに歩んでいる人々は、このお方のみ言葉を聞くだけでなく、読んで理解する。神の律法は世で無効にされており、その権威は天であつた最初の大反乱のときとちょうど同じように侮られている。そして神はわたしたちが諸国の動きに気づくだけの知性を持つようにと望んでおられる。それによってわたしたちが危険のしるしを察知し、このお方がお与えになった警告を認識できるように、そして目前の危機のときに、わたしたちが大欺瞞者の側にいるのを見出されることがないためである。
.....

もしわたしたちが自分の義務を理解したいと切に望んでいるなら、〔神は〕わたしたちが暗闇に包まれるがままにしてはおかず、何が真理であるかを自分自身のために知るようにと理解力を啓発してくださる。わたしたちは危険な誤りを真理として受け取る者にはなりたくない。神の警告と勧告のメッセージを拒むことによって、自分の魂を危険に陥れたくはない。わたしたちの最大の危険は増し加わる光を拒むという自分自身の傾向の中にあるので、唯一の安全は「主はこう言われる」を自分自身のために知って理解することである。……神の律法に関する争闘は始まっているので、柔和と畏れをもって、わたしたちの内にある希望について理由を述べる準備をしなければならない。自分の足がどこに立っているかを知らなければならない。

神の律法はほとんど全世界的に無効にされているが、神のご要求に服従する義人の残りの民がいる。……

教理の風がわたしたちの周りで吹き荒れるが、それらによって動かされてはならない。神はわたしたちに義と真理、すなわち律法と証の正しい標準を与えておられる。(ザ・サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1889年4月22日)

最善のための失望

「さてダビデは自分の家に住むようになったとき、預言者ナタンに言った、『見よ、わたしは香柏の家に住んでいるが、主の契約の箱は天幕のうちにある』。ナタンはダビデに言った、『神があなたとともにおられるから、すべてあなたの心にあるところを行いなさい』。その夜、神の言葉がナタンに臨んで言った、行ってわたしのしもべダビデに告げよ、『主はこう言われる、わたしの住む家を建ててはならない』。」
(歴代史上 17:1 ~ 4)

ダビデは、心の中でしようと計画した工事をすることは、彼の名の榮譽であり、彼の政府に栄光をもたらすものであることを知っていたが、快く彼の意志を神のみこころに服従させた。このように感謝の気持ちをもって思い切ることは、クリスチャンの中でさえ、あまり見られない。壮年の力にあふれた時期が過ぎても、したいと思った何かの大事業を自分でやりとげようとする人が、なんとよくあることであろう。ところが、彼らは、それに不適任なのである。神の預言者がダビデに語ったように、神の摂理は、彼らがしようと望んでいる仕事が、彼らに与えられないことを告げる。他のために道を備えるのが彼らの仕事である。しかし、多くの者は感謝して、神の指示に従うかわりに、自分たちが軽視または拒否されたものと思い、しりごみしてしまい、もし、自分たちがしようと思ったことができないのならば、何もするまいと思うのである。また、負う能力のない責任をなんとかして保持しようと努力する者が多い。彼らは、自分では十分することができないことをしようとしてむなしく努力する一方、彼らのできることをおろそかにしている。こうして、彼らが協力しないために、大事業が妨害されたり、挫折したりするのである。(人類のあけぼの下巻 406, 407)

神の僕が活動的な働きになかで会える困難、逆流、辛苦、失望は正しい品性を形づくるにあたって、ただ彼らを強めるだけである。(教会への証 3 巻 494)

十字架とかなえられない望みは、君主らと共に生きて天を失うよりはるかに良い。(医療伝道 158)

5月8日

ホルダのメッセージ

『主はこう言われます、……彼らがわたしを捨てて他の神々に香をたき、自分たちの手で作ったもろもろの物をもって、わたしを怒らせたからである。それゆえ、わたしはこの所にむかって怒りの火を発する。これは消えることがないであろう。』ただし主に尋ねるために、あなたがたをつかわしたユダの王にはこう言いなさい、『あなたが聞いた言葉についてイスラエルの神、主はこう仰せられます、あなたは、わたしがこの所と、ここに住んでいる民にむかって、これは荒地となり、のろいとなるであろうと言うのを聞いた時、心に悔い、主の前にへりくだり、衣を裂いてわたしの前に泣いたゆえ、わたしもまたあなたの言うことを聞いたのであると主は言われる。』(列王記上 22:16～19)

神は、エルサレムの破壊は避けることのできないものであるとのみ言葉をヨシヤにお送りになった。たとえ民が神のみまえに自らをへりくだらせても、彼らはその罰を逃れることはできなかった。あまりにも長い間神に罪を犯すことによって彼らの感覚が鈍くなっていたために、もし裁きが彼らに臨まなければ、まもなく同じ罪深い道に逆戻りしてしまうのであった。しかし王が神のみ前に心を低くし、すぐに許しとあわれみを神に請い求めたことを主が認められたとの言葉を、彼は女預言者ホルダから受け取った。……

王は、彼の側で、改革をもたらすためにできることは何一つ残さず成し遂げた。……民に向かって演説をする場所で、ヨシヤは彼らのために律法の書を読むようにと命じた。彼は非常な真剣に思い、その律法を自ら声に出して読んだ。彼は深く感動し、砕けた心の哀感を込めて読んだ。……

わたしたちはなにをすべきだろうか。大いなる光を持っているわたしたちは。律法は絶えずわたしたちの前に保たれてきた。わたしたちは度々それが説かれるのを聞いてきた。主の怒りは、ご自分の民がご自分の御言を無視するゆえに、彼らにむかって点じられている。魂の罪の自覚がわたしたちを悔悟のうちに十字架の下へ行かせるべきである。そして、そこで「わたしたちは救われるために何をすべきでしょうか。何をもって主の前に来るべきでしょうか」と言いつつ、心を尽くして祈るべきである。兄弟たちよ、遅くなる前に、速やかに問いなさい。(世界総会冊子 1903 年 4 月 1 日)

模範としての預言者

「兄弟たちよ。苦しみを耐え忍ぶことについては、主の御名によって語った預言者たちを模範にするがよい。」(ヤコブ 5:10)

断固とした神の僕は、たいてい偽りの宗教教師からの最もむごい迫害に苦しんできた。しかし真の預言者は、神に不忠実であるよりは、むしろ非難や死から選ぶ。無限のお方の目は、天来の譴責の器の上に注がれ、彼らは重い責任を負っている。しかし神は虚偽の陳述、偽り、あるいはののしりによって彼らに加えられた危害をご自身になされたかのようにご覧になり、それに応じて罰を下されるのである。(教会への証 4 卷 167)

エレミヤは自国民からのもっとも過酷な迫害に苦しんだ。なぜなら彼が神からの忠実なメッセージを担ったからである。主によって素晴らしい事柄を見ることを許されたイザヤは、ユダヤ民族の罪を忠実に譴責したので、のこぎりで寸断された。主のブドウ畑を世話するために来た預言者らは実際に打たれ、殺された。(サ・サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1898 年 2 月 17 日)

どの時代にも神が選ばれた使者たちは、ののしられ、迫害された。しかしその苦難を通して神の知識が広まったのである。キリストの弟子はみなこの列に加わり、預言者たちと同じ働きを推し進めなければならない。そして敵は真理に逆らっては何一つなし得ず、むしろ真理のためになっていることを覚えるべきである。侮辱のことが浴びせられても、神は真理が前面に出され、検討と論議の主題になるよう意図しておられる。人々の心をゆり動かさなければならない。あらゆる論争、あらゆる非難、良心の自由を束縛するあらゆる企ては、ともすれば眠りをむさぼりがちな人心を目ざめさせる神の手段である。このような結果は、神の使者たちの生涯の中に何度もみられた。かの高貴で雄弁なステパノがサンヒドリン議会の扇動によって石で打ち殺された時、福音事業は何らの損失もこうむらなかった。ステパノの顔に輝いた天の光と彼の臨終の時の祈りに聞かれた神のようなあわれみなどは、……罪を指摘する鋭い矢のようなものであった。こうして迫害者のパリサイ人サウロは、異邦人や、王たちやイスラエルの子らにキリストの名をもたらず選びの器となったのである。(祝福の山 41, 42)

5月10日

今日の同様の召し

「主の言葉がわたしに臨んで言う、『わたしはあなたをまだ母の胎につくらないさきに、あなたを知り、あなたがまだ生れないさきに、あなたを聖別し、あなたを立てて万国の預言者とした』。その時わたしは言った、『ああ、主なる神よ、わたしはただ若者にすぎず、どのように語ってよいかわかりません』。しかし主はわたしに言われた、『あなたはただ若者にすぎないと言ってはならない。だれにでも、すべてわたしがつかわす人へ行き、あなたに命じることをみな語らなければならない。彼らを恐れてはならない、わたしがあなたと共にいて、あなたを救うからである』と主は仰せられる。そして主はみ手を伸べて、わたしの口につけ、主はわたしに言われた、『見よ、わたしの言葉をあなたの口に入れた。』」（エレミヤ 1:4～9）

キリストが弟子たちをつかわされたように、今日も、主はご自分の教会の信者たちをつかわされる。使徒たちに与えられていたのと同じ力が彼らのために与えられる。神を自分たちの力とすると、神は彼らと共に働いて下さり、彼らの努力はむなしくなることはない。彼らが携わっている働きは、神が印を押されているものだということを、彼らに認識させよう。……〔エレミヤ書 1:7～9 引用〕。そして神は、われわれが、神の聖なるみ手がくちびるに触れたことを感じながら、与えられたみことばを語るために出て行くようにと命じておられる。

キリストは教会に神聖な責任をお与えになった。教会員はそれぞれ、神がその恵みの富と、計り知れないキリストの富とを世にお伝えになる器とならねばならない。世の人々に、キリストのみたまと品性をあらわす器ほど、キリストが望んでおられるものはない。人間を通して救い主の愛があらわされることほど、世が必要としているものはない。全天は、神がキリスト教の力をあらわすことがおできになる男女を待っている。

教会は、真理を宣べ伝えるための神の機関であって、特別の働きをする力を神から与えられている。もし教会が神に忠実であり、神のすべての戒めに従うなら、教会には神の計り知れない恩恵が内住するであろう。教会が真実に神への忠誠をつくし、イスラエルの神、主をあがめるとき、どんな勢力もこれに対抗することはできない。（患難から栄光へ下巻 307, 308）

忠実に語られた預言

「夢をみた預言者は夢を語るがよい。しかし、わたしの言葉を受けた者は誠実にわたしの言葉を語らなければならない。わらと麦とをくらべることができようかと、主は言われる。」(エレミヤ 23:28)

わたしたちには、神のみ言葉から宣布すべき、重大で厳粛な真理が豊かにある。そこには、試金石となる真理として神の群れに提供するために、無に等しい人間の理論を考案したり、計画したりする余地はまったくない。麦ともみ穀には何の関係があるか。(今日神と共に 296)

主は、終わりの時代にご自分の民に必要であると思われた主題を、[啓示者]ヨハネに開かれた。このお方がお与えになった教訓は黙示録の書に見いだされる。わたしたちの主なる救い主イエス・キリストとの協労者になりたい者は、この書に見出される真理に深い関心を示す。彼らは筆舌によって、キリストが明らかにするために天から来られた素晴らしい事柄をはっきり示そうと奮闘する。[黙示録 1:1 ～ 3 引用]。

黙示録で秩序立てて与えられている厳粛なメッセージは、神の民の思いに第一位の場所を占めるべきである。他の何ものにもわたしたちの注意を奪わせてはならない。

尊い時間がすみやかに過ぎ去っているので、神が墮落した世界にお送りになったメッセージの宣布にあたえられるべき時間を、多くの者が奪われる危険がある。サタンは、永遠の現実に関わる真理の研究に携わるべき思いが脇へそらされるのを見ると喜ぶ。

キリストの証、すなわち最も厳粛な種類の証が、世に対して担われるべきである。黙示録全体に最も尊く高める約束があり、また最も恐ろしく厳粛な意味を持つ警告もある。真理の知識を持っていると公言する者は、キリストによってヨハネに与えられた証を読まないのであろうか。ここにはあて推量はなく、科学的な欺きもない。ここにはわたしたちの現在と未来の幸福に関する真理がある。麦ともみ穀に何の関係があるか。

(教会への証 8 巻 301、302)

5月12日

神によらない聞きよい事柄

「いま行って、これを彼らの前で札にしるし、書物に載せ、後の世に伝えて、とこしえにあかしとせよ。彼らはそむける民、偽りを言う子ら、主の教を聞こうとしない子らだ。彼らは先見者にむかって『見るな』と言い、預言者にむかつては『正しい事をわれわれに預言するな、耳に聞きよいことを語れ、迷わしごとを預言せよ。大路を去り、小路をはなれ、イスラエルの聖者について語り聞かすな』と言う。」（イザヤ 30:8～11）

今日、罪を特に不快に思わない多くの偽りの預言者がいる。彼らは、神の使者の譴責と警告によって人々の平安が不必要に乱されると不平を言う。彼らに関して言えば、罪人の魂を自分たちの聞きよい偽りの教えによって、致命的な安逸へ寝かしつける。古代イスラエルはこのように墮落した祭司のへつらうメッセージに魅了された。繁栄についての彼らの予言は、悔い改めと服従を勧告した真の預言者のメッセージよりもっと好ましかった。

神の僕は優しく思いやりにみちた精神を表し、人々の取り扱いにおいていかなる個人的な動機によっても動かされていないこと、また主のみ名による怒りのメッセージを与えることで喜んではないことをすべての者に示さなければならない。しかし彼らは神の民と公言する者を墮落させている罪を指摘することを決してしり込みしてはならず、彼らを促してその過ちから向きを変え、主に従わせる努力を止めてもならない。

罪に覆いをかけ、それを犯した人の思いにそれほど悪質なものにうつらないようにする者は偽預言者の働きをしているのであり、そのような道には神の報復の怒りが続くことを予期できるのである。主は決して墮落した人間の願望にご自分の方法を合わせることはなさない。……

神は悪事をなす者に少しも共感なさることはない。このお方はご自分の民の罪をうまく隠したり、またご自分が悪しき者に平安はないと宣言しておられるときに、「平安、平安」と叫ぶ自由をだれにもお与えにならない。神が、ご自分のメッセージを伝えるためにお送りになる僕に対して反抗を扇動する者は、主のみ言葉に反抗しているのである。（教会への証 4 巻 167）

滅ぼされた詐欺師

「預言者エレミヤはまた預言者ハナニヤに言った、『ハナニヤよ、聞きなさい。主があなたをつかわされたのではない。あなたはこの民に偽りを信じさせた。それゆえ主は仰せられる、「わたしはあなたを地のおもてから除く。あなたは主に対する反逆を語ったので、今年のうちに死ぬのだ」と』。預言者ハナニヤはその年の七月に死んだ。」(エレミヤ 28:15 ～ 17)

あわれみ深い神が、反逆する民に課せられる最も軽い罰は、バビロンの支配に服することであった。そしてもし彼らが、この服役の命令に逆らうならば、彼らは神の厳しい懲罰をあますところなく受けなければならないのであった。

エレミヤが降伏のくびきを彼の首にかけて神のみこころを知らせたときに、諸国から会議に集まった人々の驚きは、たいへんなものであった。

エレミヤは、断固とした反対に遭っても、降伏についての彼の所信をまげなかった。主の勧告に反駁したもののうちの著名な人は、ハナニヤであった。彼はすでに人々に対して警告が発せられていた偽預言者の一人であった。ハナニヤは王と宮廷の寵愛を得ようとして反対の声をあげ、神が彼にユダヤ人に対する激励の言葉をお与えになったと言ったのである。……

エレミヤは祭司たちと人々の前で、主が定められた期間の間、バビロンの王に降伏するように熱心に嘆願した。彼は、彼と同じような譴責と警告の言葉を語ったホセア、ハバクク、ゼパニヤなどの預言をユダの人々に引用した。彼はまた、罪を悔い改めないことに対する刑罰の預言の成就として起こった出来事を引用した。過去において、神の刑罰は神の使者が示したとおり、神の計画の正確な成就として、悔い改めない人々の上に下ったのである。偽預言者はエレミヤと彼の言葉に対する人々の不信感を強めたのであった。彼は不正にも自分を主の使者であると言い、その結果死んでしまったのである。(国と指導者下巻 61 ～ 64)

5月14日

神が支配しておられる

「人の子よ、あなたの顔をアンモンの人々に向け、これに向かって預言し、アンモンの人々に言え。主なる神の言葉を聞け。主なる神はこう言われる、あなたはわが聖所の汚された時、またイスラエルの地の荒された時、またユダの家が捕え移された時、ああ、それはよい気味であると言った。それゆえ、わたしはあなたを、東の人々に渡して彼らの所有とする。彼らはあなたのうちに陣営を設け、あなたのうちに住居を造り、あなたのくだものを食べ、あなたの乳を飲む。」(エゼキエル 25:2～4)

ロトの唯一の子孫であるモアブ人とアンモン人は、不道德な偶像礼拝者の種族であって、神に対する反抗者であり、神の民の恨み重なる敵だった。(人類のあけぼの上巻 176)

神はアンモンびととモアブびとが、イスラエルに対して行った残虐と裏切りのゆえに、彼らは永久に神の民の会衆から閉め出されなければならないと、モーセによって言われた(申命記 23:3～6 参照)(国と指導者下巻 269)

強国が神の原則を拒否し、その拒否のゆえに国家の滅亡を招いたのであったが、それでもなお、すべてを支配する神のみこころが、各時代を通じて著しく働いていたのである。預言者エゼキエルが捕囚期間にカルデヤの地において与えられた、驚くべき幻の中で見たものはこれであった。地上の王たちの出来事を支配する神の力をあらわした象徴が、驚く彼の眼前に描き出された。(国と指導者下巻 142, 143)

イザヤ、エゼキエル、またヨハネに与えられた幻の中で、天が地上で起こっている出来事にどれほど密接に係っているか、また神に忠実な者に対するこのお方の保護がどれほど大きいかを、わたしたちは知る。世に支配者がいないわけではない。来るべき出来事の進行は主のみ手のうちにある。天の大能者は、ご自分の教会の問題をご自身の責任で引き受けておられるのと同様に、諸国の運命をにぎっておられる。……

わたしたちは神を信頼し、このお方を信じ、前進する必要がある。(教会への証 5 巻 753、754)

予期せず召された謙遜な者

「アモスはアマジヤに答えた、『わたしは預言者でもなく、また預言者の子でもない。わたしは牧者である。わたしはいちじく桑の木を作る者である。ところが主は群れに従っている所からわたしを取り、「行って、わが民イスラエルに預言せよ」と、主はわたしに言われた。』」（アモス 7:14, 15）

神のみ事業に有益で誉れを受けた働き人のうちどれほど多くの者が、人生における最も地位の低いつましい義務の中で訓練を受けたことであろうか。モーセはエジプトの次期支配者であったが、神は彼を王の宮廷から連れて行って、彼に任じた働きをさせることはおできにならなかった。彼が40年間忠実な羊飼いをした後にはじめて、彼は自分の民の解放者として遣わされたのである。ギデオンはイスラエルの軍隊を救出するために、神のみ手のうちにある器として打穀場から連れて行かれた。エリシャは鋤を置いて神の命じられることを行うために召された。神がアモスに宣布するメッセージをお与えになったとき、彼は農夫であり土を耕す者であった。

キリストとの共労者になる者はみな、なすべき非常に多くの困難で性分に合わない働きがあるため、彼らを指導する教訓は思慮深く選ぶべきであり、彼らの品性の特徴や彼らすべき働きに適合させるべきである。（福音宣伝者 332、333）

エリシャが畑で雄牛の後について行くことから、預言の働きに捧げるために召されたように、ウィリアム・ミラーは鋤を手放して、人々に神の王国の神秘を開くために召された。彼は震えながらこの働きに入り、自分の聴衆を一步一步導いて、預言的な時代をキリストの再臨に至るまで導いた。彼は自分の言葉によっておきた広範囲に及ぶ関心を見たとき、あらゆる努力と共に勇氣と力を得た。

彼は学校の教育はほとんど受けていなかったけれども、知恵の源であるお方と結びついていたので、賢くなった。彼には強い精神力があり、心の真の親切心を併せ持ち、クリスチャンのへりくだり、落ち着き、自制心があった。彼は立派な品性の持ち主で、品性の尊厳や道徳的卓越さに価値を認めるところではどこでも、尊敬と高い評価を集めないではいなかった。（預言の霊 4 巻 207, 208）

5月16日

ハガイからのメッセージ

「そこで、主の言葉はまた預言者ハガイに臨んだ、主の家はこのように荒れはてているのに、あなたがたは、みずから板で張った家に住んでいる時であろうか。それで今、万軍の主はこう言われる、あなたがたは自分のなすべきことをよく考えるがよい。」(ハガイ 1:3～5)

預言者ハガイの時代には、人々が任意のささげ物すら出し惜しんで神のご用のためにささげなかった結果の著しい例があげられている。ユダヤ人は、バビロンの捕囚から帰還後、主の神殿の再建にとりかかった。ところが頑強な敵の反対に会って、工事は中断された。そして、ひどいひでりがやって来て、彼らは困窮状態に陥り、神殿の建築完成は不可能だと思うようになった。「主の家を再び建てる時は、まだこない」と人々は言っていた。しかし、主の預言者は彼らに言った。〔ハガイ書 1:2～6、9～11、12:16、17引用〕。

こうした警告に目をさまして、人々は神の家の建築にとりかかった。(人類のあけぼの下巻 162, 163)

悔い改めた罪人は自分の違反を思い起こされ、自分の危険を警告されるからといって、絶望する理由とはならない。彼らのためになされるこれらの努力こそ、神が彼らをどれほど愛し、彼らを救おうと望んでおられるかを示している。彼らには、永遠の命を受けるためにこのお方の勧告に従い、そのみ旨をおこなうことだけがある。神は過ちを犯しているご自分の民の前に彼らの罪を置かれるが、それは彼らが聖なる真理の光の下で、彼らの罪をことごとくその極悪さのうちに見ることができるためである。そのとき、それらを永遠に捨てることが彼らの義務である。

神は、父祖の時代、ダビデの時代、預言者の時代、使徒の時代と同じく今日も、罪から救うのに力強いお方である。聖なる歴史において、神がご自分の民を彼ら自身の不義から救い出されたことを記した数え切れないほどの実例が、今の時代のクリスチャンたちに聖なる教えを受けることを熱望させ、裁きの厳密な調査に耐える品性を完全にするために熱心にさせるべきである。(教会への証 4 巻 15)

あなたの道をよく考えなさい。考えるために時間を取りなさい。あなたの行動を量りなさい。(ユース・インストラクター 1899 年 8 月 3 日)

帰ってくるエリヤのメッセージ

「見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤをあなたがたにつかわす。彼は父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て、のろいをもってこの国を撃つことのないようにするためである。」(マラキ 4:5、6)

神の御霊が思いと心を支配するとき、〔このお方は〕父の心をその子に向けさせ、不従順な者を正しいお方の知恵に向けさせる。エホバの律法はそのとき神のご品性の写しとしてみなされ、神の恵みに触れられた心から新しい賛美がほとばしり出る。なぜなら、彼は神のみ約束が自分の経験の中で成就したこと、また自分の違反が許され、自分の罪が覆われることを実感するからである。彼は神の律法を犯したことに對するこのお方への悔い改めと、自分の義認のために死んで下さったわたしたちの主イエス・キリストへの信仰を働かせてきた。(レビュー・アンド・ヘルド 1892年6月21日)

わたしたちの永遠の命に関する大いなる主題の研究ほど、気高くし、活気づけるものは他にない。学生は神がお与えになるこれらの真理をしっかりと掴むよう努力しよう。これらの尊い事柄を測り知るよう努めよう。そうすれば彼らの思いは努力に応じて拡張し、強く成長する。しかし決して使い物にならないような事柄がつめこまれた思いは、小さく、弱々しい思いである。なぜなら、俗な素材を扱う仕事しか与えられないからである。神から来る気高く、高められた啓示を考える仕事を与えられてこなかったのである。……

不必要な事柄はすべて、研究課程から除き去り、学生にとって本当に価値ある研究だけを彼の前に提示する必要がある。彼はこれらだけに習熟する必要があるが、それは彼が神の命で測る命を自分自身のために確保することができるためである。そして彼がこれらを学ぶとき、彼の思いはキリストとバプテスマのヨハネの思いと同じく強められ広がる。ヨハネを偉大にしたのは何であつたろうか。彼は上から下ってくる知恵に思いを開き、ユダヤ国民の教師に教えられた多量の伝統には思いを閉じたのであつた。(教育における特別な証 150, 151)

5月18日

預言者を準備する

「御使が彼に言った、『恐れるな、ザカリヤよ、あなたの祈が聞きいれられたのだ。あなたの妻エリサベツは男の子を産むであろう。その子をヨハネと名づけなさい。……そして、イスラエルの多くの子らを、主なる彼らの神に立ち帰らせるであろう。彼はエリヤの霊と力とをもって、みまえに先立って行き、父の心を子に向けさせ、逆らう者に義人の思いを持たせて、整えられた民を主に備えるであろう。』」（ルカ 1:13、16、17）

天からのみ使いはザカリヤとエリザベツに、キリストの来臨を伝える使者を準備する際に、神と調和して働くために自分たちの子供をどのように訓練し教育すべきかを教えるために来た。彼らは両親として、ヨハネが有能な働き人として神に任じられた役割を果たすのに適した品性を、彼のうちに形成することにおいて、忠実に神と協力するのであった。ヨハネは彼らが年老いてからの息子、奇跡の子であったので、両親は、彼には主のためになす特別な働きがあり、主が彼の面倒を見てくださると判断を下すこともできたが、そのようには考えなかった。彼らは田舎の人里はなれた場所に引っ越した。そこでは彼らの息子は都会生活の誘惑にさらされたり、彼らが親として彼に与える勧告や教訓から離れるよう誘われたりすることはないのであった。彼らは、どのような方面でも神がヨハネの人生に計画なさった目的に合うような品性をその子のうちに発達させるために、自分たちの分を果たした。「暗黒と死の陰とに住む者を照し、わたしたちの足を平和の道へ導く」ために、自分たちの息子が善良で賢くなることができなくなるような不注意な怠慢は、彼らの側になかった。彼らは自分たちの義務を立派に果たした。（サ・サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1896年4月16日）

キリストのさきがけ、バプテスマのヨハネの品性と経験は、子供の訓練をしている両親への励ましとなるべきである。ヨハネは自分の住まいを町や村の中につくらなかった。幼年時代から青年時代まで、青年時代から大人の時代まで、彼は荒野に住んだ。しかし彼はいかなる利己的な目的のためにもそのように生きたのではなかった。（同上 1897年2月18日）

預言者の両親から学ぶ

「彼は主のみまえに大いなる者となり、ぶどう酒や強い酒をいっさい飲まず、母の胎内にいる時からすでに聖霊に満たされており、」（ルカ 1:15）

主によってわたしたちに課せられている厳粛な責任と義務が、わたしたちの意志と状況にあうまで無視されることがあってはならない。キリストの模範、バプテスマのヨハネの模範、そしてダニエルと立派な三人の模範に表されたような克己と自己犠牲の原則は、あらゆる状況や環境を通じて、鋤の刃のように、遺伝的また後天的習慣をすくべきである。（牧師への証 421）

主は子供たちのために死なれたので、ご自分がお与えになった教えにそって子供たちを訓練し教育することで、両親がご自分と協力するなら、彼らのために大いなる働きをなさる用意がある。バプテスマのヨハネの子供時代における品性は、子供たちの訓練をするにあたって両親に励ましとなるべきである。

主の薫陶と訓戒によって子供たちを育てるのは、両親が行うことのできる最も偉大な伝道の働きである。母親は玉座につく王よりも偉大な働きを委ねられている。彼女には、他のだれもできない自分の子に関連した果たすべき種類の義務がある。もし彼女が日々キリストの学校で学ぶなら、神を畏れて自分の義務を果たし、主の麗しい群れとして子供たちの世話をする。

母親はいらだちと小言を抑えなければならない。いらだちと小言の習慣を行うのは安全ではない。なぜなら、あなたは家庭のなかで不愉快で苛酷（かこく）になり、おそらくは何でもあなたを不快にすることに対して感情を爆発させるようになるからである。これはあなたの魂を非常に傷つけ、あなたの家族の魂を傷つける。忍耐強く、親切で、優しくありなさい。あなたの子供たちの信頼と愛を得なさい。そうすれば彼らを制するのは難しくなくなる。決していらだったり、脅かしたり、実行できない約束を子供たちにしたりしてはならない。あなたが自分の言葉を果たさないとき、あなたに対する子供たちの信頼は弱くなる。……

子供たちが、いい子になろうとしたり正しいことを行おうとしたりしても何の意味もないと思わせるような方法で、彼らを取り扱ってはならない。（原稿リリース 2巻 278, 279）

5月20日

預言者自身の準備

「幼な子は成長し、その霊も強くなり、そしてイスラエルに現れる日まで、荒野にいた。」(ルカ 1:80)

キリストのさががけ、バプテスマのヨハネは幼年時代に両親から訓練を受けた。彼の人生の大半は荒野で過ごしたが、それは祭司やラビの怠慢な敬神を見ることによって、あるいは正しい原則を歪め軽視する彼らの格言や言い伝えを学ぶことによって、感化を受けることがないためであった。当時の宗教教師は靈的に非常に盲目になっていたので、天に起源を持つ徳をほとんど認識できなかった。彼らはあまりにも長い間、自尊心、妬み、嫉妬をいだいてきたため、彼らは旧約聖書の真の意味を損なうような方法でそれを解釈した。ヨハネは自分の選択で、荒野の厳しい訓練のために都会の生活の楽しみと贅沢を捨てた。ここにおける彼の環境は単純さと克己の習慣に都合が良かった。彼は、世の喧騒(けんそう)に妨害されることなく、彼はここで自然と啓示と摂理の教訓を研究することができた。ザカリヤへのみ使いの言葉が神を畏れる両親によって度々繰り返された。幼年時代から彼の使命が彼の前にあり、彼はその聖なる信任を受け入れた。彼にとって荒野の孤独は、疑い、不信仰、不純がほとんど全面に行き渡っている社会からのありがたい逃れ場であった。彼は誘惑に抵抗する自分自身の力を信用しなかった。また罪のはなはだしい罪深さを感じる感覚を失うことがないように、罪との不断の接触を避けた。

しかしヨハネは、何もせず陰気な苦行で、あるいは利己的な孤独のうちに生涯を送ったのではなかった。彼は時折、人々と交わるために出かけ、世の中で何が起きているかいつも関心をもって観察した。彼は自分の静かな避難所から事件の展開を眺めた。聖なる御霊に照らされる見解をもって彼は人々の性質を研究したが、それは彼が天のメッセージをどのように彼らの心に届かせるかを知るためであった。(教会への証 8 巻 2 月 21 日)

力をもって荒野に

「そのころ、バプテスマのヨハネが現れ、ユダヤの荒野で教を宣べて言った、『悔い改めよ、天国は近づいた』。預言者イザヤによって、「荒野で呼ばれる者の声がする、『主の道を備えよ、その道筋をまっすぐにせよ』」と言われたのは、この人のことである。」(マタイ 3:1-3)

不和と争いのさなかに、一つの声が荒野からきこえてきた。それは、「悔い改めよ、天国は近づいた」という、人々を驚かせるようなきびしい、しかし望みに満ちた声であった(マタイ 3:2)。新しいふしぎな力をもってそれは人々を動かした。預言者たちは、キリストの来臨をはるか将来の出来事として預言していた。ところがいまそれが近づいたと叫ばれているのであった。ヨハネの奇妙な恰好(かつこう)は聴衆の心に古代の預言者たちを思わせた。彼の態度と服装は預言者エリヤに似ていた。彼はエリヤの霊と力とをもって、国をあげての墮落を攻撃し、みなぎっている罪を責めた。彼のことばは率直で鋭く、罪をさとらせる力があつた。多くの者は彼が死からよみがえった預言者の一人であると信じた。全国民はわきたった。群衆が荒野へむらがり集まった。ヨハネはメシヤの来臨をのべ伝え、人々に悔い改めを呼びかけた。罪からのきよめのしるしとして、彼はヨルダン川の流れて人々にバプテスマを施した。このようにして彼は、意味深い実物教訓によって、神の選民であることを自称している人々が罪にけがれていること、また心と生活がきよめられなければメシヤの王国にはいることができないことを宣言した。」(各時代の希望上巻 105, 106)

荒野の説教者のことばには力があつた。彼らはメッセージを断固として伝え、祭司やつかさたちの罪を責め、彼らに天国のわざを行なうように命じた。また、命じられたわざを行わず、神の権威を無視することがいかに罪深いものかを、ヨハネは彼らに示した。彼は罪と妥協しなかった。そして、多くの者が不義を離れたのである。

ユダヤの指導者たちの口にするとところが真実のものであつたならば、彼らはヨハネのあかしを受け入れ、イエスをメシヤと信じたことであろう。しかし、彼らは、悔い改めと義の実を示さなかった。彼らが軽べつした者たちが、彼らより先に天国へと進んでいた。(キリストの実物教訓 254, 255)

5月22日

預言者以上のもの

「彼らが帰ってしまうと、イエスはヨハネのことを群衆に語りはじめられた、『あなたがたは、……なんのために出てきたのか。預言者を見るためか。そうだ、あなたがたに言うが、預言者以上の者である。」「見よ、わたしは使をあなたの先につかわし、あなたの前に、道を整えさせるであろう」と書いてあるのは、この人のことである。あなたがたによく言っておく。女の産んだ者の中で、バプテスマのヨハネより大きい人物は起らなかった。しかし、天国で最も小さい者も、彼よりは大きい。』」(マタイ 11:7, 9～11)

主は何年ものあいだ、健康改革に注意を払うようご自分の民に呼びかけてこられた。これは人の子の来臨に備える準備の働きの大きな分野の一つである。バプテスマのヨハネは主の道を備え、人々を義人の知恵に向けさせるために、エリヤの霊と力をもって出て行った。彼はキリストの再臨の道を備えるために、神が人々の前に提示するための聖なる真理を委ねてこられた、終わりの時代に生きている人々を象徴している。ヨハネは改革者であった。天使ガブリエルは、天から遣わされて、ヨハネの父親と母親に健康改革に関する指示を伝えた。彼はぶどう酒や強い酒をいっさい飲んではないこと、また誕生前から聖霊に満たされていることを告げた。

ヨハネは友人や生活の贅沢を離れた。らくだの毛を織った衣という彼の衣服の単純さは、ユダヤ人の祭司たちや国民全般の浪費と虚飾に対するはっきりとした譴責であった。いなご豆とはちみつという純粋な菜食であった彼の食事は、いたるところに蔓延していた食欲の放縦と大食に対する譴責であった。……

キリストの再臨のために道を備える人々は、ちょうどヨハネがキリストの初臨のためにエリヤの霊のうちに来たと同様に、忠実なエリヤによって象徴されている。改革という大きな主題が関心の的となり、大衆の思いが掻き立てられなければならない。万事における節制がメッセージに結び付けられ、神の民をその偶像より、その大食より、そして衣服やその他の事柄における浪費より、引き戻さなければならなかった。(教会への証 3 卷 61, 62)

真理のために殉教した

「ヘロデは先に、自分の兄弟ピリポの妻ヘロデヤのことで、ヨハネを捕えて縛り、獄に入れていた。すなわち、ヨハネはヘロデに、『その女をめとるのは、よろしくない』と言ったからである。」(マタイ 14:3, 4)

ヨハネの生涯は悲しみと自己否定の生涯であった。彼はキリストの初臨のさきがけとなったが、このお方の奇跡を目撃し、このお方の表された力を楽しむことは許されなかった。イエスがご自分を教師として立てられるとき、ヨハネは自分が死ななければならないことを知っていた。彼の声は、荒野以外ではほとんど聞かれなかった。彼の生涯は孤独であった。彼は父親の家族と交わりを楽しむために固執しようとはせず、自分の使命を果たすために彼らを後にした。群衆はせわしい町や村を後にして、すばらしい預言者の言葉を聴くために荒野へと集まった。ヨハネは木の根元に斧を置いた。彼は結果を恐れずに罪を譴責し、神の小羊のための道を備えた。

ヘロデはヨハネの力強く鋭い証を聞いたときに、心を動かされ、非常な関心をもって彼の弟子となるためにはどうしなければならないかをたずねた。ヨハネは彼が自分の兄弟の妻と、彼女の夫がまだ生きている間に結婚しようとしているという事実を知ったので、ヘロデにそれは律法にかなわないことを忠実に伝えた。ヘロデはどんな犠牲も払いたくなかった。彼は自分の兄弟の妻と結婚し、彼女の影響によって、ヨハネを釈放しようと試みてはみたものの、彼を捕らえ、投獄した。監禁されているときに、ヨハネは弟子たちを通して、イエスの力あるわざについて聞いた。彼はこのお方の恵み深い言葉を聞くことはできなかった。しかし、弟子たちは彼に情報を伝え、彼らの聞いたことによって彼は慰められた。まもなく、ヨハネは、ヘロデの妻の影響で、首を切られた。わたしは、イエスに従った最もいやしい弟子でこのお方の奇跡を目撃し、このお方の唇からもれた慰めの言葉を聞いた者は、バプテスマのヨハネよりも大いなる者であったことを見た。つまり、彼らはその生涯において、より高められ、より誉れを受け、より楽しみがあったのである。(初代文集 267, 268)

5月24日

終わりの時代の預言

「神がこう仰せになる。終りの時には、わたしの霊をすべての人に注ごう。そして、あなたがたのむすこ娘は預言をし、若者たちは幻を見、老人たちは夢を見るであろう。その時には、わたしの男女の僕たちにもわたしの霊を注ごう。そして彼らも預言をするであろう。」(使徒行伝 2:17, 18)

わたしたちには、自分たちの不信仰によって自分たちの祝福を制限し、得られるはずの利点を失うのでないかぎり、この世の今の時代に強力な力で聖霊が働いてくださるという保証がある。……

過去において、昔の聖なる人々は、聖霊に動かされたときに語った。いにしえの時代、預言者たちは自分たち自身のうちにおられた聖霊が何を示されたのか探り調べた。そのときには、聖霊は力のうちに与えられたのではなかった。なぜなら、イエスがまだ栄光を受けておられなかったからである。ペンテコステの日以降、聖霊はむすこ娘たちに、しもべやはしために注がれるのであった。(原稿リリース 1 巻 364)

使徒行伝 2 章に、弟子たちが聖霊を受けたときにもたらされた経験が記録されている。……[使徒行伝 2:12 ～ 21 引用]。

もしヨエルのこの預言が、使徒たちの時代に部分的に成就したのであれば、わたしたちはそれがさらに神の民に明らかに表されるべき時代に生きている。このお方はご自分の民が道徳的闇のただ中における光となるように、彼らにご自分の御霊をお与えになる。そして大きな光が世のいたるところに反射するのである。ああ、わたしたちの信仰が増し加えられて、主がご自分の民と共に力強く働いてくださるように。(説教と講和 1 巻 391)

いにしえの時代、神は預言者や使徒たちの口によって人々に語られた。今の時代、このお方はご自分の御霊の証によって彼らに語られる。神が今ご自分のみ旨と、ご自分の民に進んでほしいと望まれる道に関して教えておられるほど熱心に神の民にお教えになったことはかつてなかった。しかし、彼らはこのお方の教えによって益を受けるであろうか。彼らはこのお方の譴責を受け、警告に注意を払うであろうか。神は部分的な服従はお受け入れにならない。このお方は自己との妥協はお認めにならない。(教会への証 4 巻 147, 148)

虚栄から分離する

「イスラエルよ、あなたの預言者たちは、荒れ跡にいるきつねのようだ。あなたがたは主の日に戦いに立つため、破れ口のにぼらず、またイスラエルの家のために石がきを築こうともしない。彼らは虚偽を言い、偽りを占った。彼らは主が彼らをつかわさないのに『主が言われる』と言い、なおその言葉の成就することを期待する。」(エゼキエル 13:4-6)

偽りの牧者たちは酔っているが、それは酒のためではなく、彼らはよろめいているが、それは強い酒のためではないことを、わたしは示された。神の真理は、彼らに対して閉ざされていて、彼らはそれを読むことができない。彼らは、第七日目安息日は何であるかと、それが聖書的眞の安息日であるかどうかという質問を受けるときに、人の心を作り話にむける。……このような預言者たちが、砂漠のきつねのようなものである……彼らは、裂け目に立ち、石がきを築いて、神の民が、主の日の戦いに立ち得るようにしなかった。だれかが心を動かされて、真理のことに、これらの偽りの牧者たちに質問し始めると、彼らは、自分たちの目的の達成のためと質問者たちの心を静めるために、最も容易で好都合な方法を取り、自分たちの立場さえ変更するのである。……

神に反対する者の多くは、その寝床の上で悪を計り、昼間彼らの悪い計画を実行して、真理を沈黙させ、何か新しいことに人々の心を向けさせて、最も重要で尊い真理から人々の心をそらそうとするのである。……

再臨信徒であると公言している種々の団体は、それぞれ、真理を少しずつ持っているが、神は、これらの真理をすべて、神の日のための準備をしている神の民にお与えになった。また、神は、これらのどの団体も知らず、また理解しない真理をお与えになった。主は、この人々には封じられている事柄を見て理解する用意がある者たちに、開示なさった。もし神が、人々に伝えるべき新しい光をお持ちの場合には、神が選んで愛しておられる人々に、それを理解させてくださる。彼らは、暗黒と誤りの中にある人々のところへ行って光を受ける必要はない。(初代文集 228～230)

5月26日

誤って適用された預言

「主の言葉がわたしに臨んだ、『人の子よ、イスラエルの預言者たちに向かって預言せよ。すなわち自分の心のままに預言する人々に向かって、預言して言え、「あなたがたは主の言葉を聞け」。主なる神はこう言われる、なにも見ないで、自分の霊に従う愚かな預言者たちはわざわざいだ。』」(エゼキエル 13:1～3)

わたしがこの方面〔正しい道からはずれて誤り導いている人々に率直に語ること〕において、もっともつらかった仕事は、主に従いたいと願っていることをわたしが知っている人を扱うことであった。しばらくの間、彼は自分が新しい光を受けているのだと思っていた。彼は非常に病んでおり、まもなく死のうとしていた。そしてああ、わたしの心は、彼が何をしているかをわたしが彼に告げる必要を生じさせるようなことをしないでくれたらと、どれほど願ったことであろう。彼は自分の幻を人々に示し、彼らは彼の言うことを熱心に聴いた。そしてある人々は彼が靈感を受けているのだと思った。彼は図を作成し、たしか1894年のしかるべき日に主が来られるということを聖書から示し、論じていた。多くの人々にとって、彼の議論には落ち度がないように思われた。彼らは彼の病室での力強い説教について語った。最もすばらしい幻が彼の目の前を過ぎて行った。しかし、彼の靈感の源は何であっただろうか。それは彼の痛みを和らげるために打たれたモルヒネであった。……

わたしに与えられた主の言葉はこうであった、「これは真理ではなく、違った道に導き入れるものである。そしてある人々はこの発表をめぐって混乱し、信仰を捨てるようになる。」……

キリストがいつ来られる、あるいは来られないと時を定めるとき、だれであってもそれは真理のメッセージではない。神はだれにもキリストが来臨を5年遅くされる、10年、あるいは20年と言う権利を与えてはおられないことははっきり覚えていなさい。」「(マタイ 24:44)。これがわたしたちのメッセージであり、中空を飛んでいる三天使が宣布しているメッセージそのものなのである。(レゲッド・メッセージ 2巻 113, 114)

繰り返し繰り返し、わたしは時を定めることに関して警告されてきた。神の民に時に基づいたメッセージが与えられることは二度とない。わたしたちは聖霊の注ぎのためであっても、キリストの来臨のためであっても、定まった時を知ることはないのである。(ビュー・アンド・ハルド 1892年3月22日)

惑わしの危険

「人の子よ、心のままに預言するあなたの民の娘たちに対して、あなたの顔を向け、彼らに向かって預言して」(エゼキエル 13:17)

アンナ・フィリップは励ましを受けてきたが、受けるべきではなかった。それは彼女にとって大変な害、すなわち彼女を欺瞞の内にとどめることとなった。わたしたちの兄弟姉妹の中でこれらの啓示だと思われることをすぐに取り上げ、それらに神聖な信任状があると思っている者がいるのは遺憾である。これらの事柄は、この時代のために欠くことのできない働きを成し遂げるような性質のものではない。聖なる天来の事柄を描写するのに、子供じみた比喻や例証が用いられ、崇高なものと愚にもつかないものが交じり合っている。働きは一見大いなる神聖さを伴っているようであるが、魂をわなにかけ、誤り導くよう意図されているのである。(原稿リリース 14 巻 190, 191)

アンナ・フィリップは害を受けており、神のテストに堪えられない働きをするように奨励され、欺かれている。

アンナ・ガーマイヤはこうして害をこうむった。彼女の父親と母親は、彼女が自分の子供じみた夢を神からの啓示だと信じこませた。彼女の父は、子供に向かって神から選ばれた者として語った。彼女の幻想や夢はみなアンナの幻として書き記された。彼女には自分に提示された数字や象徴があり、自分の母親や父親に対する譴責があった。痛烈な譴責の後には、主が彼らのためになさろうとするすばらしい事柄について最もうれしがらせるようなことが続いた。……

一見彼らによって靈感を受けたかのような人々の小さなグループが形成された。そして、幻はホワイト姉妹の幻よりも霊的であると宣言された。

その後、ガーマイア氏は、恩恵期間がしかじかの時に閉じられると教え、主の来られる時を設定するトラクトを発行した。道徳的な純潔に関する証が担われ、そして次に第三天使のメッセージに関して最も忌まわしい理論、すなわちあまりにも胸が悪くなるような内容で紙面に書くものはばかれるような理論が続いていた。正直で、神を畏れおののく魂が幾人かこれらのことを受け入れ、またある者は汚された。ホワイト姉妹からサタンの陰謀を明らかにし、魔法を解く証が伝えられたとき、一人は傷心のうちに死に、別の者は、道徳的破滅まで間一髪のところであった。(同上 189, 190)

5月28日

狂信の種類

「にせ預言者を警戒せよ。彼らは、羊の衣を着てあなたがたのところに来るが、その内側は強欲なおおかみである。あなたがたは、その実によって彼らを見わけるであろう。」(マタイ 7:15, 16)

ある姉妹が、自分の友達にあてた手紙の中で非常に熱烈に、ホワイト姉妹が、もしわたしたちが神との正しい関係を保つならば、いま幻を与えられている人々と同じ程度に、すべての人が預言の賜物を持つことができるようになる時が来るのを示されたという 兄弟の言葉を語っている。この言葉を語る権威はどこにあるのであろうか。わたしはこの姉妹が 兄弟を誤解したとしか思えない。なぜなら、彼がそのようなことを言うとは考えられないからである。筆者は続けて、「

兄弟は昨夜、神は他のみなの益のためにすべての人に語られるのではなく、その人自身の益のために各々に語られる。そして、これこそ、ヨエルの預言の成就なのであると言った」と述べている。彼は、これがすでに数々の事例で発展しつつあると述べた。彼はあたかも、ホワイト姉妹がこれまで、またこれからまだ取るような指導的な立場は、だれも取らなくなっているかのように語った。モーセのことを例に挙げ、彼は指導者であったが、他の多くの人々が、その預言を発行されてはいないものの預言したことが言及されていると述べた。……

これらの発言は、神からのものだと言われている他の事柄と織り交ぜられ、誤り導いている。そして、多くの人の思いは、それらを熱心にとらえ、誤った印象によって、わたしたちの真の立場と働きを誤解するのである。真理であることの多くが、過ちを混ぜて極端な意味に受け取られ、興奮しやすい人々によって実行されている。こうして狂信が、規則正しく統制のとれた、働きを完成へ向けて前進させるために天が定めた努力に取って代わるのである。

これらの預言に関わる考えについて、わたしはあえて、一言も表明されなければよいのだがと申し上げる。このような発言は、サタンが偽の働きを持ち込むのに確かに有利となるような事態に道を備える。均整の取れていない人々の思いを狂信に導くばかりではなく、たくらみのある人々がこの興奮をさらに自分自身の利己的な目的のために利用する危険がある。) ポールソン・コレクション 128, 129)

夜の盗人のように

「あなたがた自身がよく知っているとおり、主の日は盗人が夜くのように来る。人々が平和だ無事だと言っているその矢先に、ちょうど妊婦に産みの苦しみが増すように、突如として滅びが彼らをおそって来る。そして、それからのがれることは決してできない。」(テサロニケ第一 5:2, 3)

偽預言者がいるのは事実であるが、聖書から真理を指し示して説教している人々もいる。深い熱心さと正直な信仰をもって聖霊に動かされ、彼らは人々に、わたしたちがキリストの再臨の間近に生存していることを示すことによって、彼らの思いと心をかきたてている。……

預言は急速に成就している。もっと、はるかにもっと、これらの恐るべき重要性をもった主題について語られるべきである。すべての魂の運命が永遠に決定される時が目前に迫っている。この主の日は、急がれている。偽の見張り人たちは、「万事良し」との叫びを上げている。しかし、神の日は急速に近づいている。その足音は、世の陥った死のような眠りを起こすことがないように、抑えられている。見張り人が「平和だ無事だ」と叫んでいるときに、「突如として滅び」が彼らをおそって来る。そして、それからのがれることは決してできない(テサロニケ第一 5:3)。なぜなら、「その日は地の全面に住むすべての人に臨むのであるから」(ルカ 21:35)。それは娯楽を愛する者や罪深い者に、夜中の盗人のように臨む。万事が安全なように見えるとき、そして人々が安心して床についているときに、徘徊しながら密かに夜中の盗人が、自分の獲物に忍び寄るのである。悪を防ぐには遅すぎるときになって、ある扉や窓が安全ではないことが明らかにされるであろう。「だから、あなたがたも用意をしないさい。思いがけない時に人の子が来るからである」(マタイ 24:44)。人々は今、自分たちが人気のある教会のもとで安全だと思って、ゆったり安んじている。しかし、すべての者は、どこかが開いたままになって敵が入ってくるのではないよう警戒しよう。この主題を人々の前につねに保つために大いなる努力が払われるべきである。世の人々ばかりでなく、わたしたち自身の教会の前でも、主の日が突然予期せぬときに来るというこの厳粛な事実をつねに保たなければならない。預言の恐るべき警告がすべての魂に呼びかけられている。だれ一人として、驚かされる恐れはないと感じるべきではない。(教育に関する特別な証 106-108)

5月30日

預言のいっそう確実な言葉

「こうして、預言の言葉は、わたしたちにいっそう確実なものになった。あなたがたも、夜が明け、明星がのぼって、あなたがたの心の中を照すまで、この預言の言葉を暗やみに輝くとしびとして、それに目をとめているがよい。聖書の預言はすべて、自分勝手に解釈すべきでないことを、まず第一に知るべきである。なぜなら、預言は決して人間の意志から出たものではなく、人々が聖霊に感じ、神によって語ったものだからである。」(ペテロ第二 1:19～21)

おのおの昔の預言者たちは、彼ら自身の時代についてよりも、わたしたちの時代のために語った。したがって、彼らの預言はわたしたちのために効力があるのである。(エレキッド・メッセージ 3 巻 338)

わたしたちが、献身した神の僕たちを通して、聖霊によって提示された光をもっと十分に受け入れれば受け入れるほど、昔の預言の真理が、永遠のみ座ほどにますます深く確かなものに、見えてくる。わたしたちは神の人々が聖霊に動かされたときに語ったことを確信するようになる。人々は、聖霊が預言者を通して語られたことを理解するために、自らも聖霊の感化力の下にいないといけない。これらのメッセージが与えられたのは、預言を語った人々のためではなく、それらの成就の場面のただなかに生きているわたしたちのためであった。(同上 2 巻 114)

神の聖霊を通して、預言の霊を信じる信徒たちの信仰を強めるために、神の御声がたえず警告と教えのうちにわたしたちに届いてきた。繰り返し与えられてきた言葉は、わが民の取ってきた立場について信仰を強めるために、わたしがあなたに示したことを書き記しなさい、であった。時と試練は、与えられた命令を無効にしてはおらず、かえって苦しみと自己犠牲の年月は、与えられた証の真理を確固たるものとしてきた。メッセージの当初に与えられた教えは、この終わりの時代に安全に従うことのできる教えとして守られるべきである。これらの光と教えに無関心な人々は、光を拒む者がつまずき、倒れ、わなにかけられ、捕らえられるとわたしたちがはつきりと伝えてきたわなを逃れられると思ってはならない。(同上 1 巻 41)

どの人の預言の解釈によっても、この「イエスの再臨の 때가近づいている」という大事件が間近に迫っていることを示す諸事件の知識に対する確信を奪われてはならない。(クリスチャン教育の基礎 336)

命を与える力

「時に彼はわたしに言われた、『人の子よ、息に預言せよ、息に預言して言え。主なる神はこう言われる、息よ、四方から吹いて来て、この殺された者たちの上に吹き、彼らを生かせ』。そこでわたしが命じられたように預言すると、息はこれにはいった。すると彼らは生き、その足で立ち、はなはだ大いなる群衆となった。」(エゼキエル 37:9, 10)

枯れた骨の谷の幻の中で、主の手が預言者エゼキエルに伸べられたとき、彼は息に預言するように命じられた。そして彼の言葉への答えとして、殺された者に命が回復され、彼らは彼の前に、はなはだ大いなる群衆(軍隊)となった。この比喻は、どんな回復の働きも神にとって難しすぎることはないことを示すために預言者の前に提示された。(ザ・サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1883 年 7 月 26 日)

主の側に立ち、王国の忠実な臣民として自分の役割を果たしなさい。この地上歴史の終わりの時代に神の民の導きとして教会の中におかれてきた賜物を認めなさい。神の教会は初めから、勧告し、訓告し、指示する生きたま言葉として、預言の賜物をそのただ中に所有してきた。

わたしたちは今や第三天使のメッセージの働きの終局、すなわちサタンが自分の時の短いことを知っているがゆえにますます力を増し加えて働く時に来ている。それと同時に、聖霊の賜物を通して、聖霊の注ぎにおけるさまざまな働きがわたしたちにもたらされるようになる。これは後の雨の時である。(エレクテッド・メッセージ 3 巻 83)

今やわたしたちの努力をゆるめたり、弱気に気力をなくしたりしている場合ではない。わたしたちの明かりを柵の下に隠したり、聞き良いことを語ったり、偽りを預言したりする時間はない。否、まったくない。シオンの城壁に眠たい見張り人の場所はない。すべての力を完全にあますことなく神のために用いなければならない。あなたの忠誠を保ち、神と真理のための証を担いなさい。この世がどんなことをほのめかそうと脇にそれてはならない。わたしたちは妥協するわけにはいかない。わたしたちの前には生ける問題があり、それはこの地上歴史の最終に至るまで、神の残りの民にとって命に関わる重要性を持っている。なぜなら、ここに永遠の利益がかかっているからである。わたしたちはたえず主なるイエス・キリストを見ていなければならない。(特別な証シリーズ A No.1b 9)

6月1日

群れを養う

「〔キリスト〕は、ある人を……伝道者とし、ある人を牧師、教師として、お立てになった。」(エペソ 4:11)

伝道者を二人ずつ組ませて、あらゆる大都市の各地で働かせなさい。各々の町にいる働き人は勧告と祈りのために度々互いに会い、それによって彼らが効果的に調和して共に働く知恵と恵みを得られるようにすべきである。みなあらゆる利点を最大限に生かすためにはつきり目ざめていよう。わたしたちの民は武具をまとい、すべての大都市にセンターを設立しなければならない。(医事伝道 300)

雄弁な説教が、長い間築き上げた利己心の習慣をうち砕き、教会を深いクリスチャン経験に導く働きをすることはめったにない。神の真の僕は熱心である。彼は魂のへりくだりをあらわし、神の教会のためにたゆまず労する。彼は忠実な牧者の特性をあらわし、主の牧場の羊を優しく世話する。彼は「目をさましていて、死にかけている残りの者たちを力づけ」る(黙示録 3:2)。

魂の真の牧者は自分の群れの羊と小羊の世話をし、自分の心に満ちているキリストの愛が彼を通して彼らにあふれ出る。彼は彼らを注意深く守る。自分に委ねられた者への彼の優しい愛は、わたしがかつて見た、真の羊飼いであらわれるキリストを表した絵の中に示されていた。牧者は道を導き、群れはすぐ後ろを寄り添い従う。彼の腕にいだかれ、上着にくるまれている無力な小羊がいれば、その母親の羊は、彼のかたわらを信頼して歩いている。

イザヤ預言者は真の羊飼いであるお方を「そのかいなに小羊をいだし、そのふところに入れて携えゆき」と描写する(イザヤ 40:11)。小羊は日毎の糧以上のものを必要とする。彼らは保護を求めて羊飼いをあおぐ。彼らは見守りを必要としている。迷い出たものは、見つけ、囲いに連れ帰るまで忠実に探さなければならない。その譬は美しく、キリストの群れの牧者が、自分の保護と世話のもとにいる者に与えるべき忠実で愛情に満ちた奉仕をよく表している。(レビュー・アソシエイト
1909年10月7日)

伝道する！

「あなたのパンを水の上に投げよ、多くの日の後、あなたはそれを得るからである。あなたは一つの分を七つまた八つに分けよ、あなたは、どんな災が地に起るかを知らないからだ。」（伝道の書 11:1, 2）

わたしたちは母国や外国の伝道事業で指導者となる人々を必要としている。同情心が冷えておらず、その心が滅びつつある遠近の人々を探しに出て行く者を必要としている。利己心で凍りつき、魂をがんじがらめにしていく氷が溶け去らなければならない。それによって、兄弟一人びとりは、自分が兄弟の番人であることを自覚するようになる。そのとき、すべての者は、隣人が真理を知り、神に受け入れられる奉仕を捧げるのを助けるために出て行く。そのとき、キリストのみ名を公言する者は、キリストに似た品性の形成において、他の人々を助ける。もし一人びとりがキリストの方針で働くなら、貧しく悲嘆にくれている人々の間に今存在している状況を変えるために、多くのことがなされるであろうに。純粹で汚れない宗教が、明るく輝く光のようにきらめき出るであろうに。心のうちにある神の愛は、民族と階級の垣根を溶かし去り、人々がイエスの内にあるがままの真理から他の人々を締め出していた障害物を溶かし去るであろうに。真の宗教は、それを支持する人々を人生の大路やかきねのあたりに出て行かせる。それは、彼らが苦しんでいる者を助けるように導き、彼らを忠実な羊飼いとやらせて、失われた者をたずね求めて救うために荒野へ出て行き、滅びつつある羊や小羊を導きかえすことができるようにするのである。

最も不運な者も神のかたちを帯びることができ、神にとっては価値ある者である。真の宗教を持つ者は、キリストを人々に表すこと、自分がキリストの学校で学んだという事実を明らかにすることが最高位の義務であることに気づく。ああ、わたしたちは神の財産を委託されている単なる管理者にすぎないことまたキリストが失われた者を探し出して救うことに永遠の富をお用いになったように、神が与えてくださった賜物を、わたしたちが用いるべきであることに気づくことができると良いのに。わたしたちは単なる保管人、管理者であるから、やがて主人であるお方に決算報告をしなければならない。このお方は、わたしたちがご自分の財産をどのように用いたか、世にいるこのお方の家族に奉仕をしたか、しなかったかをお尋ねになる。（ザ・サザンワーク 39, 40）

6月3日

神のみ心にかなう牧者

「主は言われる、背信の子らよ、帰れ。わたしはあなたがたの夫だからである。町からひとり、氏族からふたりを取って、あなたがたをシオンへ連れて行こう。わたしは自分の心にかなう牧者たちをあなたがたに与える。彼らは知識と悟りとをもってあなたがたを養う。」(エレミヤ 3:14, 15)

「わたしの小羊を養いなさい」、「わたしの羊を養いなさい」と、ご自分の牧者に責任をくりかえしておられるキリストのみ声が何度も聞こえる。(伝道 346)

羊飼いの地位を占める者は、主の群れを注意深く見守らねばならない。それは、独裁的な監視ではなくて、励まし、強め、高めるよう導くものでなければならない。牧師の務めには、説教すること以上の意味がある。それは熱心な、個人的な働きである。地上の教会はまちがいの多い人々から成り立っている。彼らは、忍耐強く、労を惜しまず努力することによって訓練されて、この世において受け入れられる働きをなし、そして来世において光栄と朽ちぬものを与えられるようにしなければならない。神の民に対してへつらうのでなく、彼らを苛酷に取り扱うのもなくて、いのちのパンで彼らを養う牧師たち―すなわち忠実な羊飼いが求められている。こうした羊飼いは、自分たちの生活の中で、聖霊の改心させる力を日ごとに感じ、自分たちが働きかける人々に対して強い無我の愛を抱くのである。

羊飼いは教会の中で、仲たがひ、辛辣、ねたみ、嫉妬に対処するよう求められるとき、それを上手にさばく仕事が彼に負わされている。彼は、物事をきちんと整えるために、キリストのみ霊によって働かねばならない。牧師は説教壇から働きかけるばかりでなく、個人的に働きかけて、忠実に警告を与え、罪を譴責し、不正を正さなければならない。……

真の羊飼いの精神は、自分自身を忘れる精神である。彼は神のみわざに携わるために、自我を見失う。みことばを説教し、人々の家庭で個人的な伝道することにより、彼は人々の必要や、悲しみや、試みを学ぶ。そして、重荷を負って下さる偉大な主と協力して、彼らの苦しみを共にし、失望を慰め、魂の飢えを和らげ、彼らの心を神へと導く。この仕事をする牧師には天の使いが伴い、そして彼自身、救いに至る知恵を与える真理を教えられ、啓発されるのである。(患難から栄光へ下巻 225, 227)

活動的な働き

「すべての水のほとりに種をま……くあなたがたは、さいわいである。」(イザヤ 32:20)

わたしたちの大都市で真理を宣布するために断固とした努力をする時が来ている。メッセージは、聞く者が納得するような力で与えられるべきである。神はこの働きをするための働き手を起こされる。だれも神が任命なさったこれらの人々を妨害してはならない。彼らを禁じてはならない。神が彼らに彼らの働きを与えておられるのである。彼らは感化力を及ぼす特別な領域を占め、最も見込みのない場所へ真理を伝える。かつては敵であった人々が貴重な助け手となり、彼らの財産と感化力でその働きを前進させる。

これらの大都市で、この時代のための特別なメッセージを人々に伝えるために、働き人が訓練を受けることのできるミッションが設立されなければならない。(教会への証 7 卷 37)

文書伝道者は、すべての水のほとりに種をまく機会があることを覚えていよう。自分が真理の知識を与える本を売るとき、神のみ働きをしており、あらゆるタラントはこのお方のみ名の栄光のために用いられるべきであることを覚えていよう。神は、はっきりと系統だてて他の人々の前に真理を示すことができるようにこれを理解しようと努力する一人びとと共におられる。……

文書伝道者が一人しかいない場所に、百人いるべきである。文書伝道者は、物語集をもって文書伝道するのではなく、この時代のために不可欠な真理を含んでいる書物を世に提示するために、この働きに取り掛かるべきである。

文書伝道者は、戒めに従い、それに従うようにと他の人々を教える者が、改心した魂を見ることによって報いられることを覚えて、出て行こう。そして、真に改心した一人の魂が他の者をキリストに連れてくるようになる。このようにしてこの働きは新しい地域に入っていく。

文書伝道者によって大きな働きがなされるべき時がきている。世は眠っている。そして、彼らは眠っている者をその危険に目覚めさせるために、見張り人として警告の鐘を鳴らすべきである。教会は自分たちの訪れの時を知らない。彼らはしばしば文書伝道者の努力によって真理を最もよく学ぶことができる。(教会への証 6 卷 314, 315)

6月5日

忍耐力を試される

「あなたは、何事にも憤み（見張り）、苦難を忍び、伝道者のわざをなし、自分の務を全うしなさい。」（テモテ第二 4:5）

キリストに従う者は自分の主人であるお方より好意的にみなされることはないと感じなければならぬ。しかし神を自分の友また助け手とする者は、冷たい軽視、ののしり、迫害という長い冬を忍び通すことができる。彼は、キリストがお与えになる恵みによって、もっともつらい試練のもとで神を信じる信仰と信頼を保つことができる。彼は救い主の模範を思い出し、もし自分がこのようにして、品性の単純さと、心のへりくだり、またイエスへの永続的な信頼を得ることができると、苦難と迫害に耐えることができると感じる。クリスチャン信仰の勝利とは、苦しんで強くなり、服従することによって勝利し、終日ほふられてなお生きることであり、十字架を担うことによって不朽の栄光の冠を勝ち取ることである。（パウロの生涯からのスケッチ 300）

なすべきとおりに文書伝道の働きに着手する者は、教育者でありかつ学ぶ者でなければならない。他の人に教えようと努めながら、その一方で彼自身が伝道の働きをするために学ばなければならない。文書伝道者がへりくだった心で、熱心な活動力にみちてその分野に入るなら、失望して死にかけている魂に、折にかなったみ言葉を語る機会が数多くあるのを見出す。これらの貧しい人々のために労した後、「あなたがたは、以前はやみであつたが、今は主にあつて光となっている」と、彼らは言うことができる（エペソ 5:8）。彼らが他の人々の罪深い進路を見ると、
「あなたがたの中には、以前はそんな人もいた。しかし、あなたがたは、主イエスキリストの名によって、またわたしたちの神の霊によって、洗われ、きよめられ、義とされたのである」と、言うことができる（コリント第一 6:11）。

神のために働く者は失望に会うが、「見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」とのみ約束は常に彼らのものである（マタイ 28:20）。神は、「わたしはあなたの約束を信じます。わたしは失敗することも落胆することはありません」という者に、最もすばらしい経験をお与えになる。……

文書伝道者は、伝道者として伝道活動で受けている喜びと祝福を語ろう。これらの報告がわたしたちの案内誌に掲載されるべきである。なぜならそれらの感化力は遠くに及ぶからである。彼らは教会でかぐわしいかおりとなり、命から命へのかおりとなる。このようにして神はご自分と協力する者と共にお働きになるのが見られる。（教会への証 6 巻 335, 336）

教える通りに生きる

「パリサイ人のひとりで、その名をニコデモというユダヤ人の指導者があった。この人が夜イエスのもとにきて言った、先生、わたしたちはあなたが神からこられた教師であることを知っています。」(ヨハネ 3:1, 2)

神は教師イエスを天から送ることによって、天の最上にして最大の賜物をお与えになった。至高者である神との評議の座につらなり、永遠の神の至聖所に住んでおられるキリストが、人となって神の知識を人類にあらわすお方として選ばれたのである。

墮落した世界を照らす天来の光は、どれもみなキリストを通して与えられたものであった。各時代にわたって、神のみ言葉を人類に宣告した人々を通して語られたのはキリストであった。この世で最も偉大な、また最も高貴な魂を持った人々にみられるあらゆる美德は、キリストの反映である。ヨセフの純潔と慈善、モーセの信仰と柔和と寛容、エリシャの堅い信仰、ダニエルの高貴な誠実心と堅固な志、パウロの熱心と自己犠牲、これらの人々をはじめとして、その他この地上に生存したすべての人々の中に表わされている知的また霊的な能力—それはすべてキリストの栄光の輝きから出るかすかなひらめきにすぎなかった。完全な理想は、キリストの中に見いだされる。

われわれの到達しなければならない唯一の真の標準としてこの理想を示し、人はどういう者になり得るか、またキリストを受け入れる者は、人性に神性が宿ることによって、どういうものになるかということを示すために、キリストはこの世においでになった。人が神の子としてふさわしい者となるためには、どんなに訓練されなければならないか、また地上においてはどのように原則を実行し、天の生活を送らなければならないかということを示すために、キリストはおいでになった。

神の最大の賜物は人類の最大の必要に応ずるために与えられた。(教育 72, 73)

イエスは、ご自分が人に教えた通りに自ら生活された。彼は、弟子たちにこう仰せになった。「わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしは手本を示したのだ。」「わたしがわたしの父のいましめを守ったので」(ヨハネ 13:15, 15:10)。このように、キリストのみ言葉は、その生活の中に完全な実例と裏づけをもっていた。もっと重要なことは、イエスの教えはイエスの人格であったということである。イエスのみ言葉は、イエスご自身の人生の経験の表現であったばかりでなく、イエスご自身の品性の表現であった。イエスは真理を教えられたばかりでなく、イエスご自身が真理そのものであった。イエスの教えに力をあたえたものはこれであった。(同上 78)

6月7日

天の標準を求める

「御言を宣べ伝えなさい。時が良くても悪くても、それを励み、あくまでも寛容な心でよく教えて、責め、戒め、勧めなさい。」(テモテ第二 4:2)

ある牧師たちは最上の感化を及ぼすとはいえない説教様式を取り入れている。自分の説教の中に小話を織り込むことが習慣になっている。このようにして、聞く者に与える印象が命から命に至るかおりとなっていない。牧師は自分の説教におもしろがらせる話を持ち込んではならない。人々はもみ殻から徹底的にあおぎ分けた純粋な食べ物が必要としている。「御言を宣べ伝えなさい」(テモテ第二 4:2) は、パウロがテモテに与えた命令であり、これはわたしたちに委託された任務でもある。

自分の説教に物語りを混ぜる牧師は異火を用いている。神の代理者が安っぽく軽々しい言葉を用いるまでになり下がるとき、神は侮辱され、真理のみ事業は辱められる。(ビュ・アソ・ハルド 1904 年 12 月 22 日)

この時代のサタンの惑わしは、神のみ言葉である御霊の剣をもってはつきりと知的に対処しなければならない。惑星をその軌道に導き、諸世界をその力で保っておられるのと同じ目に見えないみ手が、ご自分のかたちにかたどって造られた人間のために備えをなして下さった。それは、彼が地上で自分の義務を行うときに、神の天使よりも少し低くなることができるためである。かつて人に与えられたなかで最も厳粛な真理をゆだねられている人々は神のご目的に應えていない。このお方は、わたしたちが一步ごとに神の力と栄光を見つつ、気づきつつ、完全の状態へ高く高く上がるようにと計画しておられる。人は自分自身を知らない。
.....

神の尊い書には、あらゆる階級、あらゆる職業の人々のために人生の規則が含まれている。ここには、あらゆる人にとって研究し模倣するのに良い模範が見出される。「人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためである」(マタイ 20:28)。キリストの僕の真の名誉と栄光は、宣べた説教の数ではなく、成し遂げた書き物の量でもなく、人々の必要に忠実に奉仕する働きにある。もし彼が自分の働きにおいてこの部分を怠るなら、牧師の名前への権利はない。(教会への証 4 巻 415、416)

命を増進するための忠実な譴責

「戒めはともしびである、教は光である、教訓の懲らしめは命の道である。」(箴言 6:23)

神はご自分の民に、その中の個々人に存在している罪に対して、組織として責任を問われる。組織として神の民に神のご不興もたらす罪を、教会の指導者たちが丹念に探し出すのを怠るなら、彼らはこれらの罪に対して責任がある。しかし、人の思いを取り扱うのは、かつて人が従事した働きの中でもっとも難しい働きである。どの人も過ちを犯す者を正すのに適していない。あわれみを愛しながら、公正に取り扱うだけの知恵を持っている人は一人もいない。彼らは、悪事に対する忠実な叱責に愛と優しい思いやりを混ぜ合わせる必要性を認めようとしない。ある者はいつも不必要に厳しい。そして、「彼らをあわれみ、火の中から引き出して救ってやりなさい。また、そのほかの人たちを、おそれの心をもってあわれみなさい」という使徒の指示の必要性を感じない(ユダ 22, 23)。ヨシュアのような思慮分別がなく、また不正を見つけ出し、自分たちの中に存在している罪を速やかに対処する特別な義務をもっていない人が多い。そのような人に、この働きの重荷を担っている人を妨害させてはならない。この義務を行わなければならない人の道に立ちただかつてはならない。ある人は、神が自分に課しておられないその働きを他の人々がするからと言って、あえてそれに疑問をさしはさみ、疑い、あらさがしをする。これらの人々は、神がご不興をその民から取りのけるために、蔓延している罪を譴責し、正すという重荷を負わせておられる人々を妨害し、道に立ちはだかっているのである。……

神は侮られるようなお方ではない。真の旗印が風にはためくべき時は、争闘の時である。その時こそ、旗手が堅く立ち、自分たちの真の立場を知らせる必要がある。その時、正しいことのために立つすべての真の兵士の技能がテストされるのである。責任逃れをする者が、勝利の月桂樹をかぶることは決してない。真実で忠実な者は事実を隠さず、心と力を尽くして仕事をなし、苦闘に自分のすべてをかけて、戦いの進展にまかせる。神は罪を憎まれる神であるから、あなたはだいじょうぶだと言って罪人をはげます者を、神はのろわれる。(レビュー・アンド・ヘルト 1886 年 6 月 8 日)

6月9日

教えと改革の根本

「聖書は、すべて神の靈感を受けて書かれたものであって、人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益である。それによって、神の人が、あらゆる良いわざに対して十分な準備ができて、完全にとのえられた者になるのである。」(テモテ第二 3:16, 17)

使徒パウロは終末の時代を予見して、「人々が健全な教に耐えられなくな」ると言明した(テモテ第二 4:3)。その時がちょうど到来している。多くの人々は聖書の真理を好まない。なぜなら真理は、罪深い、世を愛する心の欲望を、妨げるからである。そしてサタンは、彼らの好む偽りを提供するのである。

しかし神はこの地上に、聖書、そしてただ聖書だけをすべての教理の基準、すべての改革の基礎として保持する一つの民を、お持ちになるであろう。学識者の意見、科学の推論、教会会議の定めた信条や決議(これらは、教会の数が多くてその主張も違うように、おびたしい数にのぼって内容も千差万別である)、大衆の声、—これらのうちの一つであれ全部であれ、それをもって信仰上の事柄に関する賛否の根拠と見なしてはならない。どんな教理や戒めでも、それを受け入れる前に、「主はこう言われる」という明日な事実をその裏づけとして要求すべきである。(各時代の斗争闘下巻 360, 361)

民が必要としているのは、新しい架空の教理ではない。彼らは人間の推測を必要とはしていない。彼らは真理を知って実践する人々の証を必要としているのである。……

平和の福音の備えを足にはき、しっかりと断固として歩みなさい。たしかに純粋で汚れない宗教は、扇情的な宗教ではない。神は、推論にすぎない教えや理論に対する食欲を助長させるような重荷をだれにも負わせておられない。兄弟方、これらのことをあなたがたの教えに入れないようにしなさい。あなたの経験の中にそれらが入るのを許してはならない。あなたの生涯の働きを、それらによって損なわないようにしなさい。(教会への証 8 巻 295)

献身した霊的な働き人は、些細な理論上の相違をとりあげるのを避け、世に与えるべき試金石となるべき大真理を宣布することに自分の精力を捧げる。彼は人々に贖いの働き、神の戒め、間近に迫るキリストの来臨を指し示す。そして、これらの主題の中に思考力のための十分な食物があることが分かるのである。(福音宣伝者 312, 313)

み言葉を正しく分ける

「あなたは、健全な教にかなうことを語りなさい。」(テトス 2:1)

「健全な教」とは聖書の真理である。すなわち敬神と献身を促進し、神の民を信仰に確立する真理である。健全な教えは受ける者にとって大きな意味がある。そして、それは教師にとっても多くの意味があるのである。……

パウロの時代に真理を聞いたある者は、命にかかわらない問題を持ち出しては、人間の考えや意見を示し、教師の思いを福音の大真理からそらして、本質的でない理論の話や、取るに足りない論争の解決へ向けようとした。神のための働き人は敵の計画を知り、誤った方向に導かれ脇へそれるのを拒むために、十分賢くしなければならないことを、パウロは知っていた。魂の改心が彼の働きの重荷でなければならない。彼は神のみ言葉を宣布しなければならないが、論争は避けなければならない。

「あなたは真理の言葉を正しく教え(分け)、恥じるところのない錬達した働き人になって、神に自分をささげるように努めはげみなさい。俗悪なむだ話を避けなさい。それによって人々は、ますます不信心に落ちていき」(テモテ第二 2:15, 16)。

キリストの牧師は今日同じ危険がある。サタンは、思いを誤った方向にそらそうと絶え間なく働いている。そうすることによって、真理は心に及ぼす力を失うからである。そして牧師と民が真理を実践し、それによって聖化されない限り、彼らは重要でない問題に関する推論が思いを占めるのを許すようになる。これは難癖と口論へと導く。なぜなら無数の相違点が生ずるからである。

能力のある人々は聖書を探るために研究と祈りの生涯を捧げてきたが、完全には探求されていない聖書の部分が多くある。聖書のある部分は来世にキリストが説明をしてくださるまで完全に理解することは決してできない。解明されるべき神秘があり、人間の思いでは一致させられない記述がある。そして敵はこれらの点について議論を生じさせようとするが、それは論じることなくそのままにしておくほうが良いのである。(福音宣伝者 311, 312)

老練な男性

「老人たちには自らを制し、謹厳で、慎み深くし」(テトス 2:2)

主が老齢の試練を受けたわたしたちの働き人を祝福し、支えてくださるように！このお方が彼らの体力、精神力、霊力を保つことに関して賢くあるよう、彼らを助けてくださるように！わたしは、そのメッセージの初期に証を担った人々に次のように伝えるよう主に指示されている。「神はあなたがたに理性の力を授けておられるので、あなたがたが心身全体の健康に関する法則を理解し、それに従うことを望んでおられる。無分別であってはならない。働きすぎてはならない。休息する時間を取りなさい。神は、あなたが自分の分と場所に立ち、悪の強力な流れに下降して押し流されている男女を救うために自分の役割を果たすことを望んでおられる。神はご自分があなたに脱ぐようにとお命じになる時まで、あなたが武器をまとっているよう望んでおられる。あなたが報いを受けるのはそれほど先のことではない。(教会への証 7 卷 289)

生涯の力を傾けて神のみわざと取り組んできた人々に対しては、最も心のこもった敬意を表さなければならない。こうした老齢の働き人は、嵐や試練の真ただ中に忠実に立ってきた。彼らは病弱になっているかもしれない。しかし彼らはなお、神のために彼らの本分を全うする才能も資格も持っている。たとえ衰えて、若い者たちが負うことのできる、また、負わなければならないような重い責任を、負うことができなくとも、彼らが与えることのできる勧告は最も価値のあるものである。

彼らは間違いをしたこともあったであろう。しかし、失敗から彼らは、誤りや危険を避けることを学んできた。だからこそ賢明な勧告を与える資格があるのではないだろうか。彼らは試みや試練に耐えてきた。そして彼らの活力の一部は失われたかもしれないが、主は彼らを除かれぬ。主は彼らに特別の恵みと知恵を与えておられる。

みわざが困難なときに主に奉仕をしてきた人々、真理のために立つ者がほとんどいなかったときに信仰を持ち続けた人々は、尊ばれ、尊敬されなければならない。主は若い働き人たちに、こうした信仰の深い人々と交わることによって、知恵と力と円熟とを身につけるよう望んでおられる。そのような老練な働き人が共にいるために、大変恵まれているのだということを、若い者たちは認識しよう。若い者たちは会議の場で彼らを礼遇しよう。(患難から栄光へ下巻 277, 278)

経験のある教師

「老人たちには……信仰と愛と忍耐において健全であるように」(テトス 2:2)

神がご自分の聖霊によって確立された土台からねじ一本、あるいは柱一本でも動かそうとする人々が現れるなら、わたしたちの働きの先駆者であった老人たちにはっきりと語らせよう。また、わたしたちの定期刊行物の中にあるすでに死んだ人々の記述を再版することによって、彼らにも語らせよう。神がご自分の民を一步一步真理の道を導いてこられたときに与えて下さった聖なる光線を集めなさい。この真理は時と試練のテストに耐える。(リタイヤメント・イヤーズ 21)

いくぶんか経験がある人、かつ死にかけている教会の中でも新しい場所でもあらゆる努力をし、その働きを助けるために青年や熟年者を選び出すべき人々がいる。このようにして彼らは自ら個人的な努力に関心を持つことによって知識を得るようになり、何十人もの手が聖書朗読者、文書伝道者、訪問伝道者として役に立つ者になっていく。(伝道 470)

神が遣わされた使者は、真の牧者として行動すべきである。自分が指示したとおりに動く人々だけを世話をする人、すなわち人々について、彼らはわたしが命じた通りのことを正確に行わなければならない、もし彼らがわたしの声に聞き従わないなら、彼らに対する愛も世話もない、と言う人は、真の羊飼いでない。(原稿リリース 21 巻 269, 270)

キリストがご自分の教会に与えてこられた忍耐深い世話の後で、お求めになる実は、信仰、忍耐、愛、寛容、天を中心にした思い、柔和である。これらは日の光の中と同様に、嵐と雲と暗闇のただなかでも熟した実の房である。(教会への証 5 巻 117)

キリストのみわざに一生をささげてきた人たちが、地上での奉仕を終える時期に近づくと、聖霊による感銘を受けて、これまで神のみわざに携わっていたときの経験を詳しく話すようになる。神がその民を導かれたすばらしい配慮や、試練から彼らを救い出された神の大きな恵みの記録は、新しく信仰に導かれてきた者たちに繰り返し語られなければならない。神はこの年老いた経験豊かな働き人たちが、彼らの持ち場に立って、人々を悪の大波に押し流されないよう救うために彼らの分をなすようにと望んでおられる。神は、武具を脱ぐよう彼らに命じるまでは、武具をつけているようにと望んでおられる。(患難から栄光へ下巻 278)

円熟した女性

「年老いた女たちにも、同じように、たち居ふるまいをうやうやしくし、」(テトス 2:3)

姉妹たちは真の柔和を奨励しなければならない。彼女たちはでしゃばりであったり、おしゃべりで、あつかましい者となるのではなく、しとやかで語るのに遅くあるべきである。親切で、優しく、あわれみ深く、寛容で、謙遜であることは似つかわしく、神に喜ばれることである。もし彼女たちがこの立場を占めるなら、紳士諸君からの過度の注目という重荷を受けることはない。だれでも、これらの神を畏れる女性の周りには、いかなる不当な無作法からも彼女たちを守る純潔な聖なる輪があることを感じる。信心を公言するある女性たちに、あまりにも不注意で、だらしのない、下品な気安さをふるまう態度があり、これらがさらに大きな誤りへと導く。生活の純潔を強める主題や、神との交わりへと魂を高める主題を瞑想することに思いと心を占めている信心深い女性は、正直と徳の道からたやすくそれてしまうことはない。彼女らはサタンの詭弁に対して防備し、彼の魅惑的な技巧に耐えるための準備をする。(厳粛な訴え 148)

信心を公言する女たちが、全般的に思いを訓練するのに失敗する。彼女たちは思いを支配せずに、どこへでもおもむくままにするが、これは大きな過ちである。多くの人々に、精神力がないように見える。彼女たちは、思いが考えるよう教育してこなかった。そしてそうしなかったために、自分にはできないと考える。恵みに成長するには瞑想と祈りが必要である。女たちの間にここまで安定性がないのは、あまりにも精神の訓練がなく、またあまりに熟考することがないからである。思いを怠惰なままにしておき、頭脳労働をし、計画をたて、考え、自分のために思い出すことを他の人に任せ、このようにしてますます役に立たない者になっていく。ある人々は働かせることによって思いを訓練する必要がある、考えるように思いを強制すべきである。彼女たちがだれかに、自分のために考え、自分の困難を解決することを頼り、思考によって思いに負荷をかけることを拒むなら、記憶力、先見性、識別力の無能状態は続く。思いを教育する努力は、個人個人でしなければならない。(教会への証 2 巻 187, 188)

告発ではなく、優しい譴責

「年老いた女たちにも、同じように、……人をそしったり……せず」（テトス 2:3）

教会の名簿に名前が載っていても、偽りの告発者はサタンの支配下におり、教会を弱め混乱させ、地上におけるキリストの兄弟たちを分裂させるために彼の代理人として働く。これが成し遂げられるとき、サタンは教会の分裂した状態に勝ち誇り、キリストに従うと公言する者らを世に指さして、世の前にキリストのみ名をはずかしめ、人々を神に対する不信と反逆に固着させる。（ビュー・アノド・ヘアルド 1893 年 1 月 3 日）

無我の奉仕にあらわされるキリストの愛は、悪人を改めさせるのに剣や法廷よりも力がある。これらのものは、犯罪者を恐怖させるには必要だが、愛のある伝道者は、これ以上のことができるのである。しかられて頑固になった心も、キリストの愛にはとけることが多い。（ミストリー・オブ・ヒーリング 77）

神が、必要と考えて送られる譴責のことばはいつでも、やさしい愛により、後悔している信者一人一人に平安の約束を与えて語られる。（患難から栄光へ下巻 292）

キリストは、忠実なけん責者であられた。イエスほど、悪を憎み、彼ほど恐れることなく罪を責めたおかたはなかった。すべての不誠実で卑劣なことにとってキリストの存在は、一つのけん責であった。キリストの純潔さに照らされるとき、人は自分がいかに汚れ、おのが人生の目的がいかに卑劣で虚偽なものであるかを認めた。それでもなおキリストは、彼らをひきつけられた。人類を創造されたキリストは、人間の価値を理解することがおできになった。キリストは、ご自分が、祝福し、救おうとしていた人々の敵である悪を責められた。キリストは、たとえどんなに墮落していても、ひとりびとりの人間の中に、神と交わる特権を回復されるべき神の子の姿を認められた。

「神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、この世が救われるためである。」（ヨハネ 3:17）。キリストは、苦難と墮落の中にある人類をごらんになって、絶望と滅亡しかみえないところに、なお希望の余地を見いだされた。求める心のあるところに、キリストは向上の可能性を認められた。試みられ、敗北し、感情すら失って、まさに滅びようとしている魂に、キリストは、けん責でなく祝福をもって接しられた。（教育 79）

6月15日

経験のある女教師

「年老いた女たちにも、同じように、……良いことを教える者となるように」(テトス 2:3)

主は男と同じように女にもなすべき働きを持っておられる。もし彼女たちがまずキリストの学校で柔和という尊く最も大切な教訓を学ぶなら、神のための良い働きを成し遂げることができる。彼女たちはキリストのみ名を帯びるだけでなく、このお方の御霊を所有しなければならない。自分の魂を汚すあらゆるものから清め、このお方が歩まれたように歩まなければならない。そのときイエスの全能の力を示すことによって他の人々を益することができる。

この重大局面の働きの中で女性は自分の場所を占めることができ、主は彼女たちを通してお働きになる。もし彼女たちが自分の義務を自覚するよう神の御霊を吹き込まれ、その感化力のもとに労するなら、まさに今の時代に要求されている落ち着きを持つようになる。救い主はこれらの献身的な女性にみ顔の光を反射なさり、これによって彼女たちは男性の力に勝る力を与えられる。家族の間で男性のできない働き、すなわち内の生活に届く働きをすることができる。男性が到達できない人々の心に近づくことができる。その働きが必要とされている。(教会への証 6 巻 117、118)

多くの青年や年配の女性たちが宗教上の会話を恥ずかしがる。彼らはそのことをあるがままに語らない。神のみ言葉が彼らの保証、その希望、その平安でなければならない。彼らは天に向かって開くべき窓を閉じ、地に向かって広く開く。しかし彼らが人の魂の素晴らしさを見るとき、地に向かって窓を閉め、地上の娯楽や交際に頼るのを止めて、おろかな考えや罪から離れる。そして、霊的な事柄を見ることができるよう、天に向かって窓を開く。そのとき彼らは「わたしは自分が他の人々に輝かせることができるために、義の太陽の光を受けます」と言うことができる。(ビュー・アンド・ワルド 1899 年 5 月 9 日)

世界へのあわれみの最後のメッセージを担う人々は、家庭の宗教に関して両親を教えることが義務であると感じなければならない。(教会への証 6 巻 119)

女たちに慎み深さを教える

「〔年老いた女たち〕は、若い女たちに……慎み深く……あるようを教える」(テトス 2:4)

自分の結婚生活が不幸であると思っている多くの女性たちをわたしは知っている。彼女たちは自分の想像が病的になるまで小説を読み、自分が作り出した世界の中で生きる。自分が繊細な思いを持った女性で、よりすぐれ、洗練された思考力をもっていると考え、自分の夫はそれほど洗練されておらず、これらのすぐれた資質がなく、それゆえに自分の想像上の美德や洗練されたものを評価することができないと思うのである。その結果、これらの女性は自分が大変な受難者、殉教者であると考え、この主題について狂わんばかりに、このことを話し、考えている。彼女たちは自分の価値が他の人々よりも高いと思い、自分たちの繊細な感覚にとってとても俗人と交わることなどできないと考える。これらの女性は自らを愚かな者としているのである。そして彼女たちの夫は、妻がよりすぐれたレベルの思いを持っていると考える恐れがある。

主がわたしに示されたことによれば、この種の女性は小説を読み、白昼夢を見、空想の世界に楼閣(ろうかく)を建て、生きることによって、想像力をゆがめてしまったのである。彼女たちは自分自身の考えを、人生の普通の有益な義務へと引き下ろさない。自分の道に横たわる人生の重荷を取り上げて、夫のために幸せな楽しい家庭を作ろうと努めない。自分の重荷を担わず、すべての重荷を夫にのせる。他の人々が自分の必要を予想して自分のために何かしてくれることを期待するが、その一方で思う存分あらさがしをし、好きなように疑問をさしはさむのである。このような女性には恋わずらいの感傷主義があり、絶えず自分は正しく評価されておらず、自分の夫が当然自分に払うべき注意を払ってくれないと考えている。

事態の真相はといえば、もし彼女たちが自ら役に立つ者であることを示せば、彼らの価値は評価されるのである。しかし、彼らが他の人から同情と注目を引きだそうと追い求めているながら、同じものを返す義務はまったく感じないとすれば、……彼女たちの生活に価値あるものはほとんど期待できない。……彼女たちは物事をまったく間違っている。彼女たちは、自分の夫にふさわしくないのである。(教会への証 2 巻 462, 463)

6月17日

妻たちを教える

「〔年老いた女たち〕は、若い女たちに、夫を愛〔す〕……るように……教え」（テトス 2:4）

自分が繊細で洗練された存在……だと考える女性は、非常に役に立たない妻、また母親になる。しばしば彼女たちは、有用で実用的な自分の夫から愛情を引っ込めて、他の男に非常な注意を示し、恋わずらいの感傷主義で他人の同情を引き、彼らに自分の試練、困難、また何か高尚な働きをしたいという強い願望を語る。そして、自分の結婚生活が失望であり、なしたいと望んでいた働きに対する妨害であるという事実を明らかにする。

ああ、幸福なはずの家庭の中に、なんという不幸が存在することか！これらの女性は自分自身にとってのろいであり、夫にとってものろいである。彼女らは自分を天使であると考えて、自分をおろかなものとし、重荷以外のなにものでもない。彼女たちがなすように主がゆだねておられる人生の普通の義務を、自分たちの道にそのまま残し、彼女たちは落ち着かず、文句を言いながら、いつも簡単で、もっと高められた、やりやすい仕事を探している。自分たちが天使だと思っているが、結局は人間なのである。（教会への証 2 巻 464）

夫が真理に反対する一方で、妻は真理を選ぶ立場をとることがあるかもしれない。ここでただちに試練、すなわち信仰と感情における分離という試練が訪れる。わたしたちはその妻に「あなたの夫は安息日を守らないのだから、彼から離れなければならない」と言うべきであろうか。とんでもない。もし彼女が真理を受け入れる前に忠実な妻であったのなら、そしてもし自分の友人たちのうちにキリストがそのために死なれた人々をみとめるなら、真理を受け入れた後は、いっそう大きな忠誠心をもって自分の義務を果たし、できれば彼らが光を見るよう導こうと努めるのである。「しかし、信仰を持つ妻は、夫の不信仰のゆえに自分の義務の確信を放棄すべきではないか」という質問がなされる。決してそうしてはいけけない。なぜならキリストが彼女の主であり、主人であられるからである。彼女は自分に対する高い天の要求をわきに捨てることはできない。（ヒストリカル・スケッチ 232）

神は、あなたが救う信仰に非常に欠けている夫と子供たちの状態を見るときあなたの試練をご存知である。あなたが自覚する以上にはるかに多くのことは、あなた次第である。あなたは武具をまとうべきである。（教会への証 2 巻 242, 243）

最初の伝道地

「そうすれば〔年若い女たちは〕、若い女たちに……子供を愛〔す〕……るように教え」（テトス 2:4）

王座に座る王の義務よりももっと重要で高尚な働きが女性のためにある。彼女らは自分の子供たちがこの世で役に立つことができ、神のむすこ娘となることができるために、子供たちの思いの形成に大きな影響を及ぼし、彼らの品性を形造ることができる。（教会への証 3 巻 483）

あなたには、あなたの家庭生活の中で魅力的で親切的な、しかし堅固である忠実な妻また母親としてクリスチャンの恵みを例証するようにと、聖なる高い召しを受けた偉大な働きがある。あなたの子供たちを訓練するための正しい方法を学び、機転を身につけるために、主の方法を自分のものにすることができる。神のへりくだった子供として、キリストの学校で学び、教訓と模範の両方で家庭におけるもっとも完全に徹底的な働きをするためにあなたの力を絶えず向上させるよう努めなさい。

この働きの中であなたは主の助けを得る。しかしあなたが妻また母親としての義務をかえりみなければ、そして他の種類の働きをするために主に向かって両手を開くならば、たしかにこのお方は矛盾したことを仰せにはならないことを知りなさい。このお方はあなたが家庭でしなければならぬ義務を指し示される。もしあなたに、これよりももっと偉大な気高い何かの働きが自分に委ねられているという考えがあるなら、あなたは欺かれている。あなたが宗教上の義務と考えることのために、自分の夫や子供たちを無視して、集会に出席したり、他人のために働いたり、他人のために聖書朗読をしたり、メッセージを伝えたりしても、あなたはパウロからテトスへの教訓の中にある靈感の言葉に対して真っ向から反対しているのである。……

子供たちは母親の注意深いまなざしを必要としている。彼らは教えを受け、安全な道に導かれ、不道徳から守られ、親切によって勝ち取られ、勤勉な訓練によって、しっかりとよい行いに定まる必要がある。……

自分の家庭、つれあいと子供たちを放棄する者に、神は魂を救う働きをお委ねにはならない。なぜなら彼らは自分たちの聖なる誓いに不忠実であることを証明しているからである。彼らは聖なる責任に不忠実であることを証明した。神は彼らに永遠の富をお委ねにはならない。（原稿リリース 434, 435, 437）

6月19日

男ではなく、女のための働き

「そうすれば〔年老いた女たちは〕、若い女たちに……慎み深く、純潔であるよう……教え」（テトス 2:4, 5）

愛する兄弟よ、今こそあなたが〔自分の評判を守るという〕これらの問題を正しい光のうちに見るべき時である。あなたは食卓に奉仕するために、神のみ言葉からそらされてしまった。……

自分の家庭の問題を話すために、だれかをつかんで離さない女たちがいる。しかし、どの問題にも二つの局面があり、たいていこういう女性自身が譴責を必要としている。彼女たちはその問題について自分の側からだけを話すので、受けるに値しない同情の言葉が彼女たちに与えられる。

女性たちが好きなだけ自分の家庭生活の不平をあなたに話し、あなたの同情を引き出すことができると感じるような実例を示してはならない。女性が自分の問題をもってあなたのところへ来たら、姉妹たちのところへ行くように、教会の女執事に自分の問題を話すようにと、はっきりと言いなさい。だれであっても男性に自分の問題を打ち明けるのは、まったくの見当違いであることを彼女に告げなさい。なぜなら、男性はたやすく欺かれ、誘惑されるからである。彼女の事情をあなたに訴えてきた人には、神はだれ一人として男性にこの重荷を負わせてはおられないと言いなさい。あなたはこれらの重荷を引き受けるほど賢くはない。これはあなたに命じられた働きではない。（原稿リリース 21 巻 97, 98）

内にある堕落と外にある誘惑との戦いの中で、賢く力強いソロモンですら打ち破られた。もっとも厳格な高潔さからわずかといえどもそれるのを許すのは安全ではない。「あらゆる種類の悪から遠ざかりなさい」（テサロニケ第一 5:22）。女性がほかの男性に自分の家族の問題を話し、夫のことをつぶやくとき、彼女は結婚の誓いを破っているのである。彼女は夫の名誉を汚し、結婚関係の神聖さを保つために建てられた壁を打ち壊す。彼女は戸を大きく開いて、サタンが狡猾な誘惑をもって入ってくるようにと招く。これはサタンがちょうど願っていることである。もし女性がクリスチャンの兄弟のところへ自分の悩みの種、失望と試練の話をもって来るなら、いつでも彼女に次のように忠告すべきである。すなわち、もし彼女がだれかに自分の問題を打ち明けなければならないなら、相談相手として姉妹を選ばなければならないと。そうすれば、神のみ事業がそれによって譴責をこうむる可能性のある悪が現れることはない。（教会への証 2 巻 306）

最高の意味での伝道

「そうすれば〔年老いた女たちは〕若い女たちに……家事に努め、善良で、自分の夫に従順であるように教えることになり、したがって、神の言葉がそしりを受けないようになるであろう。」(テトス 2:4, 5)

主は、あなたが家庭と夫と子供たちをないがしろにするようにと命じてはおられない。このお方はこの方法では決して働かれず、決してなさろうともしない。あなたには戸の前に世話をするための小さな地所があり、神はあなたの手に託されたこの働きに対する責任をあなたに求めておられる。あなたは熱心な祈りと研究によって、子供たちの異なった気質を学び、彼らの態度を注意深く注目しつつ家庭のなかで賢くなることができる。あなたは家庭のなかに、あなたが教師となる小さな学校を持つことができる。もしあなたが主の方法を理解し、それを守るために主に知恵を求めるなら、このお方はあなたが自分の家庭から離れるのではなく、そこに戻るよう導いてくださる。……

神があなたに尊い小さな群れから別れる必要のある働きを与えておられると、一瞬たりとも考えてはならない。彼らがふさわしくない交際によって混乱させられ、母親に対して心をかたくなにするがままにしておいてはならない。……

わたしたちが自分を全面的に主にささげるとき、家庭生活の単純で平凡な義務は、その真の重要さのうちに認められるようになり、わたしたちはそれらを神のみ心に沿って行く。ああ、姉妹よ、あなたは貧困に縛られ、生活の状態は質素かもしれないが、イエスはあなたの家族をお見捨てにはならない。……

あなたの夫には権利がある。あなたの子供たちには権利がある。そしてこれらはあなたに無視されてはならない。あなたに1タラントあるいは3タラント、5タラントあろうとも、神はあなたにあなたの働きを与えておられる。……

魂のまわりに雲と憂鬱をとりまく小言といらだちは、家庭生活に影と失望をもたらすだけである。母親は自分の可能性と特権の価値を半分も認めていない。彼女たちは子供たちが釣り合いのとれた品性を築くのを助けることによって、自分たちが最高の意味での伝道者、また神との共労者になれることを理解していないかのようである。これは神から彼女たちに与えられた働きの大きな重荷である。母親は家族をキリスト教徒にするための神の代理者である。彼女は、聖書の感化力が日々の義務と喜びの中でどのようにわたしたちを支配するべきかを示しつつ、聖書の宗教のよい例となるべきである。(原稿リリース 8 巻 435 ~ 437)

6月21日

青年

「若い男にも、同じく、万事につけ慎み深くあるように、勧めなさい。あなた自身をよい模範として示し、人を教える場合には、精練と謹厳とをもってし、」(テトス 2:6, 7)

あなたがだれであろうと、人の価値を特徴づけるのは、思い、心、まじめな目的、そして日々の生活である。落ち着かず、おしゃべりで、指図がましい男は、この働きに必要とされない。このような人があまりに多くあらゆるところに出没している。ほとんど経験のない多くの青年が前にしゃしゃり出て、年配者や役職者に敬意を払わず、勧告を受けたり譴責されたりすると立腹する。わたしたちにはすでにこのようなうぬぼれの強い人々が望む以上にいる。神は、慎み深い、静かな、落ち着いた青年と、原則によく調和し、また語ると同様に祈ることができ、年配者の前では立ち上がり、白髪の人に敬意を払う熟年者を召しておられる。(レビュー・アンド・ヘラルド 1883 年 11 月 13 日)

青年は快楽を愛し、娯楽を求め、利己的な満足にすすんで時と金銭と感化力を費やすのではなく、節度と信心を培うべきである。自分が今種まきの時代におり、刈り取る収穫はまいた種によることに気づくようにと日々求めなければならない。青年は、審判のテストに耐える心と行動の高潔さを求めるとき、思慮深い検討と共に人生の計画を立て、自分の品行を批評してみなければならない。彼らは自分の道を取り囲む危難の中で耐えうる防備を築くことができるために、経験のある人々からの勧告を快く受け入れるべきである。彼らは自分の責任を絶えず認識し続けたい限り、神への忠誠からそらせようとする感化力にさらされる。

神は青年が熱心な思いの人になり、ご自分の気高い働きでの活動の準備ができ、責任を担うのにふさわしくなることを望んでおられる。神は、神に栄光を帰し、人類を祝福することができるために、墮落していない、強く勇気のある、自分の前にある苦闘のなかで勇敢に戦う決心をする青年を召しておられる。もし青年が聖書だけを研究し、自分の性急な願いを静め、自分の創造主また贖い主であるお方の声に聞き従うなら、神との平和を得るだけでなく、自分が気高くされ、高められたことがわかる。(同上 1891 年 6 月 16 日)

キリストを教えるみ言葉

「非難のない健全な言葉を用いなさい。そうすれば、反対者も、わたしたちについてなんの悪口も言えなくなり、自ら恥じるであろう。」(テトス 2:8)

清められた心と唇からでる神のみ言葉は、硬い心を和らげ、砕く。もしキリストのみ言葉を聞くべき時期があるとすれば、それは今である。

人を創造なさったお方以外は誰も人間の心のうちに変化をもたらすことはできない。教師はみな自分が神の代理者によって動かされなければならないことに気づくべきである。思いと判断力は聖霊に従わなければならない。真理の聖化を通してわたしたちは信者と未信者両方の前に義の明確な証を担うことができる。

わたしたちは自分が経験しなければならないことのはるか後方にいる。清められた唇からあふれ出るべき証を宣布するのが遅れている。キリストは、食卓に座っておられるときですら、聴衆の心に慰めと勇気をもたらす真理をお教えになった。わたしたちは、可能なときはいつでもキリストのみ言葉を示すべきである。もしこのお方の愛が魂のうちにあり、そこに生ける原則として宿っているならば、心の宝庫から、その場にふさわしい言葉、すなわち軽々しい軽薄な言葉ではなく、人を高める言葉、真理と霊的な言葉が出てくる。

教師も生徒も、自分たちの会話の中でキリストを告白できる機会をいつでも見張っていよう。キリストに従う中で得た経験を語り、聖霊を求めて兄弟たちと祈ろう。キリストを公に勇敢に告白し、言葉を選ぶにあたって真の信心の単純さを表すことは、多くの説教よりも効果がある。しかしキリストの柔和を真に代表するものはほとんどいない。ああ、わたしたちはこのお方の柔和を必要としており、もたなければならない。栄光の望み、キリストが心のうちに形造られなければならない。

わたしたちは天国へ移される準備をしている。わたしたちの会話はわたしたちが主イエスを見出す天国のことでなければならない。このお方はあらゆる良い完全な賜物の与え主、そのお方にわたしたちの永遠の命の希望が集中している、わたしたちの祝福すべての創始者として認められるべきである。(ロマ・リンダ・メッセージ 313, 314)

6月23日

家庭の群れを養う

「民をわたしのものに集めよ。わたしは彼らにわたしの言葉を聞かせ、地上に生きながらえる間、彼らにわたしを恐れることを学ばせ、またその子を教えることができるようにしよう。」(申命記 4:10)

子供たちに神の要求を教え、先祖たちに対する神の処置のすべてを彼らによく教えるように、神はヘブル人に命じておられた。これは、すべての親の特別の義務で、他人に委託できないものであった。他人のくちびるではなくて、父親と母親の愛の心からの教えが、子供たちに与えられなければならなかった。日ごとの生活のすべてのできごとに、神の思想が関連づけられなければならなかった。神の民の救済にあらわされた神の大きなみわざ、そして、来たるべき贖い主の約束は、イスラエルの家庭で、くり返して語られるべきであった。そして、典型や象徴を用いて、その教訓をしっかりと心に銘記することができたのであった。神の摂理と来世に関する大真理が若い心に強い印象を与えた。若い心は自然の光景にも、啓示の言葉にも、同じように神を認める訓練を受けた。

天の星々、平原の樹木、草花、高山、小川のせせらぎなどのすべては、創造主について語っていた。聖所の厳粛な犠牲の儀式、聖所の礼拝、預言者の言葉は神の啓示であった。

モーセは、ゴセンのそまつな住宅でこのような教育を受けたのである。サムエルは、忠実なハンナから教えられた。ダビデは、ベツレヘムの丘の住居で、こうした訓練を受け、ダニエルは、捕虜として連れ去られるまで、父の家で、こうした訓練を受けた。ナザレにおけるキリストの幼少時の生活も、このようなものであった。また少年テモテが祖母ロイスと母ユニケのくちから聖書の真理を学んだのも、こうした訓練によってであった(テモテ第二 1:5, 3:15 参照)。(人類のあけぼの下巻 253, 255)

両親は子供たちが8歳か10歳になるまで彼らの唯一の教師でなければならない。彼らの思いが理解できるようになると、両親はすぐに自然という神の偉大な書を彼らの前に開くべきである。(教会への証 3 巻 137)

神のみ言葉に対して日々真剣

「今日、わたしがあなたに命じるこれらの言葉をあなたの心に留め、努めてこれをあなたの子らに教え、あなたが家に座している時も道を歩く時も、寝る時も起きる時も、これについて語らなければならない。」(申命記 6:6, 7)

子供たちにこれらの教訓を教え、彼らの記憶にきざみこむには、実物教訓や黒板や地図や絵などを用いることが役に立つであろう。親も教師も、進歩した方法をたえず研究しなければならない。聖書を教えるには、最も新しい思想と最も良い方法と最も真剣な努力がなければならない。

聖書研究に対する興味を起こし、これを高めることができるかどうかは礼拝の時間の用い方で大いに左右される。朝夕の礼拝は、一日の中で最も楽しくまた最も有益なひとときでなければならない。礼拝の時には心配ごとや不親切な思いに妨げられてはならないということや、イエスと会うためにまた聖天使たちを家の中に迎えるために親子が集まっているのだということを理解しなければならない。礼拝は、簡単に活気に満ち、折にかない、時々変化のあるものでなければならない。聖書研究にはみんなが加わり、神の律法を学んで幾度もこれをくりかえさなければならない。子供たちに聖書の読む箇所をえらばせると、彼らの興味が増すであろう。読んだところを子供たちに質問し、また子供たちに質問させるとよい。その意味をわからせるのに役立つような例を話して聞かせるがよい。礼拝がこのようにあまり長くならなければ、子供たちにも祈りをさせ、一節でもいいからいっしょに讃美歌をうたうとよい。

礼拝を正しく行なうためには、準備に心を用いなければならない。親は毎日子供たちといっしょに聖書を研究する時間を持つべきである。これを実行するためには、努力と計画とある程度の犠牲がたしかに必要であるが、しかしその努力は十分に報いられるであろう。……

子供たちに聖書への興味を持たせるためには、われわれ自身が興味をもたなければならない。子供たちが聖書研究を好きになるようにさせるには、まずわれわれが好きにならなければならない。われわれが子供たちにあたえる訓戒は、われわれ自身の模範と精神による感化力だけしか重みがないのである。(教育 221, 222)

6月25日

子供たちに聖書を教える

「子をその行くべき道に従って教えよ。そうすれば年老いても、それを離れることがない。」(箴言 22:6)

神はアブラハムを召して神のみ言葉の教師とし、彼をえらんで偉大な国民の父とされた。神はアブラハムが子供たちや一族を、神の律法の原則の中に教え導くにちがいないとごらんになったからである。アブラハムの教えに力を与えたのは、彼自身の生活による感化であった。彼の大家族は一千人以上の人々から成り、その大部分は家族の長であり、中には異教から新しく改宗した者も少なくなかった。このような家族の指導者として、堅固な人物が必要であった。ぐらぐらした弱気なやり方では間に合わなかった。神はアブラハムのことをこう仰せになった。「わたしは彼が後の子らと家族とに命じて主の道を守らせ、正義と公道とを行わせるために彼を知ったのである」と。彼は人々の心をとらえるような知恵と愛情をもって権威を行使した。看視者である神は、「(人々に) 主の道を守らせ、正義と公道とを行わせる」とあかししておられるのである(創世記 18:19)。こうして、アブラハムの感化は、彼の家族以外の者にまで及んだ。天幕の張られたところには、どこにでもそのかたわらに祭壇が築かれて、いけにえと礼拝がささげられた。……

神のみ言葉の教えが、教師の生活の中に同じように忠実に反映されているならば、それは、今日もなお変わらない効果があるであろう。……

子供たちに聖書を教える時には、彼らがどういうものに心を向け、どういうものに興味をひきつけられているかを観察し、それらのことについて聖書には何とされているかを調べさせることに彼らの興味を持たせると非常に有益である。人間をそれぞれ異なった傾向をもった者につくられた神は、ひとりびとりのためにみ言葉の中に何かを与えておられる。聖書の教訓は自分自身の生活に適用されるものであることを生徒がみとめたなら、それを助言者として仰ぐように教えるべきである。

生徒たちが聖書のすばらしい美しさを評価できるようにしなければならない。文学的に価値があるものと思われるという理由から、真の価値のない本や刺激的で不健全な多くの本が、推奨されたり、あるいは少なくとも使用してもさしつかえないものとされている。神のみ言葉という清潔な泉に自由に近づくことができるのに、どうして彼らをこのような汚れた水の流れから飲ませるようにみちびく必要がある。(教育 222～224)

サタンの偽りをうち破る

「時に王は宦官の長アシパナズに、イスラエルの人々の中から、王の血統の者と、貴族たる者数人とを、連れてくるように命じた。すなわち身に傷がなく、容姿が美しく、すべての知恵にさとく、知識があつて、思慮深く、王の宮に仕えるに足る若者を連れてこさせ、これにカルデヤ人の文学と言語とを学ばせようとした。」(ダニエル 1:3, 4)

王族の血統をうけたこれらの青年たちは、比較的質素なユダヤの家庭から、最も繁華な都会へ、しかも時の最大の君主の宮廷へ移され、国王の特別の奉仕のために選出されて教育を受けることになった。腐敗した豪華な宮廷では彼らを取り囲んでいる誘惑は強かった。エホバ神の礼拝者たちがバビロンに捕囚の身となっていることやエホバの神殿の器具がバビロンの神々の寺院に納められていることや、イスラエルの王さえバビロン人の手中にとりこたっていることなど—こうした事実を数えあげて、勝利者たちは自分たちの宗教や風習が、ヘブル人のそれよりもすぐれているという証拠として誇った。(教育 51)

不信心者や、無宗教の教師、また教理上の誤りで若者の思いを害する教師に、わたしたちの若者を委ねるのはもはや安全ではないと考えて、わたしたちはヘルズバーグに現在の十分な広さのある住居と大学を建てた。わたしたちは彼らの教育に宗教的な訓練がおりこまれる必要性と、また様々な取引や実業の分野について彼らが何かを学ぶ必要性があることをみとめた。彼らが均整の取れた品性を発達させるためには、徹底的な知的訓練だけでなく、体力の訓練の効果も必要である。そのとき彼らの知的な能力はバランス良く発達する。わたしたちの世界に存在する多くのかたよった半分だけ発達した品性を見ると胸が痛む。今日わたしたちの教会は、これらの欠陥が宗教生活に持ち込まれ、大きな損失をもたらしていることを示している。わたしたちの若者のためになすべき大いなる働きがある。(原稿リリース 1 巻 317)

6月27日

教訓の無視は運命を決定する

「彼は教訓がないために死に、その愚かさの大きいことによって滅びる。」(箴言 5:23)

品性のすべての惨めな特徴、わたしたちの世界で広く行われている悪行と氾濫している不品行はみな、神の律法が品性の基準となっていないからである。(原稿リリース 318)

教育はこの世において学生に大いに影響を与えるばかりでなく、その感化力は永遠にまで及ぶ。そうであれば、教師は正しい感化力を及ぼす能力のある人であることがどれほど重要であろうか！彼らは生徒に与えるために神の光を日々受けている宗教経験を持つ男女でなければならない。

しかし教師は両親の働きをするよう期待されるべきではない。多くの両親が恐ろしいほどに義務を怠ってきている。エリのように、彼らは適切な抑制力を働かせるのに失敗する。そしてその後、家庭で両親が子供たちに与えるべきであった訓練を受けさせるために、未熟な子供たちを大学に送る。教師には、ほとんどだれにも感謝されない任務がある。たとえ彼らがこれらのわがままな青年を改革するのに成功しても、ほとんど評価されない。もし青年が質の悪い者との交際を選び、悪から悪へと進んでいくなら、教師は非難され、学校は公に非難される。

多くの場合、その非難は当然その両親が受けるべきものである。彼らには、子供たちの精神がすなおで、思いと心がたやすく印象を受けるときに、彼らを制御し、訓練するのに最初の、最も都合のよい機会があったのである。しかし、両親の怠惰によって、子供たちは悪の道にこりかたまってしまふまで、自分の意志に従うのを許されている。

両親は世のことをもっと少なく、キリストをもっと研究しよう。世の習慣と流行を真似る努力をもっと少なくし、子供たちの思いと品性を神の模範に従って形造るためにもっと時間と努力をささげよう。そのあとで、彼らは有用性と信任の地位につく教育を受けるために、純潔な道徳と気高い目的によって防備されたむすこ娘を送ることができるのである。神への愛と畏れに支配されている教師は、そのような青年を、世に対する祝福と創造主に名誉を帰す者となる訓練をしつつ、前へ上へと導くことができる。(クリスチャン教育 39, 40)

青年を教育する

「それだから、これらの最も小さいいましめの一つでも破り、またそうするように人に教えたりする者は、天国で最も小さい者と呼ばれるであろう。しかし、これをおこないまたそう教える者は、天国で大いなる者と呼ばれるであろう。」(マタイ 5:19)

神とつながるとき、すべての教師は生徒たちを、神のみ言葉を研究し、その律法に従うよう導く感化力を及ぼす。彼は永遠の利益を熟慮するよう彼らの思いを導き、彼らの前に思考のための広大な分野、すなわち最も活力に満ちた知性が把握しようと全力を尽くしてもなお、無限の彼方があることを感じるような壮大で高尚な主題を開いてみせるのである。(クリスチャン教育 40)

各クリスチャン家族の中に教会がある。家族一人ひとりがあらゆる行動においてキリストのようであるべきである。父親は神との密接な関係を維持し、それによって家族の一人ひとりが将来の不死の命にふさわしくなるための教育と訓練を受けられるよう備えをすることが、自分の義務であることを自覚すべきである。彼の子供たちは天の原則を教えられるべきである。彼はその家族全体の祭司であり、家族一人ひとりに及ぼす感化力に対して神に釈明する責任がある。彼は、できるかぎり家族を最も好ましい条件下におき、彼らが世の中にあるような習慣や慣習、悪い風習やだらしのない原則に順応する誘惑を受けないようにすべきである。(セレクトド・メッセージ 3 巻 209, 210)

われわれの子供たちは公立学校の悪い感化力から離し、まったく改心した教師が聖書で彼らを教えることができる場所に置くべきである。このようにして、学生は神のみ言葉を自分たちの生活の威厳のある規則にするよう教えられるのである。……

家庭の外における子供たちの教育を計画するにあたり、両親は、公立学校に彼らを送るのはもはや安全ではなく、聖書を基盤とした教育を受ける学校に彼らを送るよう努力すべきであることに気づかなければならない。クリスチャンの親一人ひとりの上に、主の知識を得るよう、また神の御旨と方法への服従を通して、神の性質に預かる者となるように、彼らを導く教育を子供たちに与えるという厳粛な義務が置かれている。(両親、教師、生徒への勧告 204, 205)

6月29日

教師の教育課程

「わたしたちは、このために労し苦しんでいる。それは、すべての人の救主、特に信じる者たちの救主なる生ける神に、望みを置いてきたからである。これらの事を命じ、また教えなさい。」(テモテ第一 4:10, 11)

基本原理を教えなさい。実用的なことを教えなさい。あなたが何かすばらしいことを計画しているかのように、何をしようと期待しているかを語ることによって、世の前に大変な見せびらかしをしてはならない。決してしてはならない。あなたが教えようと思う研究分野についても、またあなたがなそうと希望している実業の働きにおいても、誇ってはならない。かえって、問い求める一人びとりに、あなたがなしうる限りを尽くして、学生に身体的、精神的、霊的訓練をほどこし、この世の生涯における有用性と、将来の不死の命にふさわしいものとするつもりであることを伝えなさい。

あなたは自分が学校について知らせるときに、生徒たちが永遠に尽きることのない年月にわたって生きるのをあなたが見たいと望むがゆえに、彼らを将来の不死の生涯に準備させる訓練をほどこすよう努めるとの所信表明をするとき、どれほどの影響力があるかと考えるであろうか。そのような声明は、この総会の兄弟姉妹がたに対して、また学校が設立されている地域社会に対して、古代語および現代語による多数の講座や、他の高度な研究部門を並べ立てて誇示するよりも、はるかに大きな感化力を及ぼすものとわたしは信じる。

学校自身に実証させよう。そうすれば後援者は失望させられることなく、また学生は自分たちがしかるべき研究について教えを受けると約束されていたのに、入学してみたら、それに取り掛かることを許されなかったと不満を訴えることもない。

初めに聖書がすべての教育の土台となっていることを理解させよう。結果として品性の改変と奉仕に適した者になる、神のみ言葉の熱心な研究は、フェルナンド校を善のための力とする。この学校に関係している兄弟がた、あなたがたの力強さは、教えることのできる言語の数にあるのでもなければ、あなたの「大学」がどれほど大きいかを語ることにあるのでもない。これらの点については沈黙していなさい。あなたがしようと計画している大きなことに関して沈黙することは、あなたが通知の中で公表できるすべての明確な断言とすべての約束にまぎって、あなたを助ける。(両親、教師、生徒への勧告 205 - 206)

命へと定められ、働きに定められる

「自分のことと教のこととに気をつけ、それらを常に努めなさい。そうすれば、あなたは、自分自身とあなたの教を聞く者たちとを、救うことになる。」(テモテ第一 4:16)

主は牧師、教師、伝道者を召しておられる。このお方の僕は戸別に救いのメッセージを宣布すべきである。あらゆる国民、部族、国語、民族に、キリストによる許しの知らせを伝えなければならない。無気力な元気のない話し方でメッセージを伝えるのではなく、はっきりとした明確な感動させる話し方で伝えるべきである。幾百もの人が自分の命のために逃れようと警告を待っている。世はクリスチャンの内にキリスト教の力の証拠を見る必要がある。単に数か所ではなく、世界中にあわれみのメッセージが必要である。

救い主の比類のない愛を見つめる者は、思考が高められ、心が純潔になり、品性を変えられる。彼は世に対して光となるため、またこの神秘的な愛を幾分かでも反映するために出て行く。わたしたちがキリストの十字架を見つめれば見つけるほど、「わたし自身には、わたしたちの主イエス・キリストの十字架以外に、誇とするものは、断じてあつてはならない」と言った使徒の言葉を、わたしたちはますます完全に自分のものとするようになる(ガラテヤ 6:14)。(福音宣伝者 29)

富む者も貧しい者も身分の高い者も低い者も光を求めている。男女はイエスの内にあるがままの真理に飢え乾いている。彼らが上からの力ある福音の宣布を聞くとき、自分たちの前に宴が設けられていることを知り、「さあ、おいでください。もう準備ができましたから」との招きに応じる(ルカ 14:17)。

「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」とのみ言葉は、キリストに従う一人びとりに語られている(マルコ 16:15)。キリストの命に定められているすべての者は、同胞の救いのために働くよう定められている。キリストが失われた者の救いのために感じられたのと同じ魂の熱望が、彼らの内にあらわされるべきである。すべての者が同じ立場を占めることができるわけではないが、すべての者のために場所と働きがある。神の祝福が与えられているすべての者は、実際の奉仕で応じるべきであり、あらゆる賜物は神の王国の前進のために用いるべきである。(教会への証 8 巻 16)

えられました。彼が同じささげ物をたずさえて来るならば、神さまはアベルのささげ物を受け入れて下さったように、それを喜んで受け入れて下さったことでしょう。

しかし、カインはとても説得されるような気分ではありませんでした。彼は非常に怒っていてまっすぐに見ることができませんでした。彼は自分が正しくて、神さまがまちがっていると思いました。そして、彼はアベルがたしかに神さまから気に入られるように何かだましたのだと確信しました。

カインは弟アベルに言いました、「さあ、野原へ行こう」。彼とどんな話をしたのかは記されていませんが、楽しいことでも兄弟らしいことでもなかったことはたしかです。彼が声を上げました。名前を呼びました。いつわって責めました。それが最初のけんかだったのです。

ますますカインは怒って、ついには、「カインは弟アベルに立ちかかって、これを殺した。」彼をこぶしか、こん棒でなぐったのか、あるいはナイフで刺したのかは、聖書に書かれていません。わたしたちは背の高くすがたの美しい青年が地面にたおれこむ光景が見せられるだけです。

死が人類家族に入り込みました。この最初の家庭が、はじめてこわれたのです。

ああ、なんという悲しい、悲しい日でしょう！

アダムとエバにこの知らせを伝えたのがだれなのかはだれも知りません。しかし、彼らのショックはどれほど恐るべきものだったことでしょう。わたしは彼らが血に汚れた畑へ走り出て、かわいそうな固くなった体をだきかかえる光景が見えます。二度と呼吸しないこと、二度とほほ笑まないこと、二度と彼らに話しかけないことが、とても信じられませんでした。そしてわたしはこのかわいそうな父親と母親が、かつてなかったほど泣き、ちょうどずっと後にダビデがアブサロムのために泣いたように、「わが子アベルよ。わが子、わが子アベルよ。ああ、わたしが代って死ねばよかったのに。アベル、わが子よ、わが子よ」と、心がはりさけるばかりに涙にむせぶ声を聞くことができます。

パクチー餃子 (にらの代わりにパクチーを入れて)

■材料

餃子の皮 1 袋分 (20 ～ 25 個)

木綿豆腐 200g

オートミール 半カップ

キャベツ 100g くらい

玉ねぎ 1/2 個

パクチー 1 束

(調味料)

生姜 1 片

にんにく 1 片

昆布顆粒だし 小さじ 1

醤油 小さじ 1

塩 小さじ 1/2

■作り方

1. 豆腐を水切りします。
2. 玉ねぎとキャベツを粗みじん切り、にんにくをみじん切り、生姜をすりおろします。
3. パクチーは全て細かく切っておきます。
4. フライパンにごま油をしいて玉ねぎ、にんにく、生姜をいれていためます。
5. たまねぎに火が通ったら、水切りをした豆腐、オートミール、キャベツ、パクチー、調味料を加えて、味をなじませるようにキャベツがしんなりするまでまぜてから、火を止めます。
6. 餃子の皮にタネを包みます。
7. フライパンにごま油を少々、餃子を並べて、中火で焼きます。焼き目がついたら、水半カップを入れて、蓋をして水分がなくなるまで蒸し焼きにします。
8. 火が通って、皮が半透明になったらできあがりです。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

☐ 福音の宝

☐ 聖所真理

お申込先 : sdarm.shomaru@gmail.com



書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



聖書物語

パート2 第15話

最初のけんか(II)

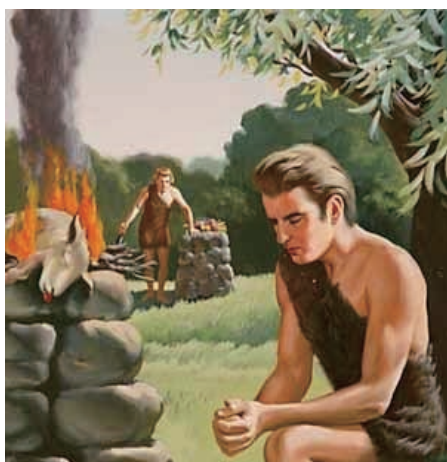
なぜなら、アベルは小羊の血を流すことによって、サタンを敗北させ、人類をそのエデンの家に連れもどしてくださる神さまのご計画を理解していること、つまり「神の小羊」、すなわち神ご自身のひとり子の死によってのみ、それが可能だと理解していることを示したからです。

カインは疑いのよちなく、アベルとまったく同じようにこのことを理解していました。しかし、彼はなぜ自分のささげ物が自分の弟のささげ物とまったく同じように受け入れられないのか認めることができませんでした。そして彼は神さまが自分のささげ物は無視なさる一方で、アベルのささげ物を「顧みられ」たのを見て、ねたみに満たされました。

「カインとその供え物とは顧みられなかったので、カインは大いに憤って、顔を伏せた。」つまり、彼が感じた通りの様子が見えましたつまり、ひじょうに心底、怒ったのです。神さまはこれらのにくい顔つきをごらんになりました。ちょうど今日すべてのみにくい顔つきをごらんになるように。そこでこのお方はカインに言われました、「なぜあなたは憤るのですか、なぜ顔を伏せるのですか。正しい

事をしているのであれば、顔をあげたらよいでしょう。もし正しい事をしていないのであれば、罪が門口に待ち伏せています。それはあなたを慕い求めますが、あなたはそれを治めなければなりません」。

神さまは公平であろうとなさいました。このお方はえこひいきはなさいません。カインにはアベルと同じ機会が与



(67 ページに続く)